

「学生による授業評価」に基づく
授業報告書

2025 年度

聖心女子大学

目次

第1章 学生による授業評価の概要	1
第2章 専任教員による授業報告書	16
第3章 学科・専攻による授業報告書	
英語文化コミュニケーション学科	42
日本語日本文学科	50
史学科	52
人間関係学科	53
国際交流学科	54
哲学科	57
教育学科 [教育学専攻・初等教育学専攻]	60
心理学科	63
第4章 聖心女子大学グッドティーチャー賞の推薦	65
参考資料 2025 年度 授業に関する調査 Google フォーム	
2025 年度 専任教員授業報告書 Google フォーム	

第1章 学生による授業評価の概要

1. 実施対象科目

2025 年度の学生による授業評価は、2023 年度に続き、Google フォームを用いたオンライン回答形式にて実施した。

2025 年度に授業評価が行われたのは 360 科目であった。内訳は専任教員による授業が 107 科目（前期 61 科目、後期 46 科目）で、非常勤による授業が 253 科目（前期 142 科目、後期 111 科目）であった。学生の有効回答者数は延べ 8,373 名となるが、実施科目のうち、教員の指示なく回答したと思われる科目については集計の対象外とした。

コロナ禍前の 2019 年度は全体で 475 科目行われたのに対し、2021 年度は 241 科目と半減したが、2022 年度は 380 科目と数字は改善され、コロナ前に戻ったとは言えないものの本年度はその水準を保っている。ただし、専任教員による授業評価数は 2019 年度の 78 科目から 2021 年度の 93 科目、2022 年度の 110 科目、2023 年度の 123 科目、2024 年度は 124 科目と増加傾向であったが、2025 年度は 107 科目と減少している。非常勤の授業評価実施数は 2022 年度から研究室を通しての告知などを行ったところ大きく改善したが、2023 年度、2024 年度は 250 科目程度と頭打ちになり、2025 年度も 253 科目と昨年度から伸びが認められない。オンライン回答以前の 2019 年度は 475 科目であったことを考えると、非常勤の授業評価の実施率は半減しており、別な方法を検討する必要がある。

2. 実施方法

学生による授業評価は Google フォームで実施した。学生は教員の指示に従い、各自 Google にアクセスして回答する。回答は無記名で、時間は 10 分～15 分程度であった。

（1）専任教員実施方法

授業評価は原則、Google フォーム上に回答する形式で行われた。回答率向上のため評価予定の科目についてできるだけ授業時間内に回答するよう周知する。授業時間内に実施が難しい場合は「明日の 17 時まで」など期日を指定して対応する。教務課で集計を行い、各授業の単純集計と自由記述部分を担当教員にフィードバックする。教員はそのデータを自身で管理し年度末に授業報告書を作成する。尚、リアクションペーパー・教員個人で作成したアンケートなどで実施の場合は、教務課を通さず教員自身で対応する。

（2）非常勤講師実施方法

実施予定科目を選択式で実施（※非常勤は選択式のみ）することを学生に指示し、回答率向上のためできるだけ授業時間内に回答するよう周知する。授業時間内に実施が難しい場合は「明日の 17 時まで」など期日を指定して対応する。教務課で集計を行い、調査結果データ及び自由記述部分は後日郵送する。

（3）前年度からの変更点などについて

2021 度は Sophie（教務管理システム）を用いて専任教員と非常勤講師に分けて実施について周知したが、回答数が増えず、全体で 241 科目、6,273 名の有効回答数であった。そこで、2022 年度からは実施についてのお知らせを Sophie に掲示するだけでなく、研究室を通じて紙媒体で配付をしている。また、

実施についてのお知らせに QR コードを記載するようにした。

専任の先生には学内メール、非常勤の先生には Sophie に「メールあり」で調査期間中 2 度ほど実施について掲示した。2022 年度からは授業評価の告知を Sophie に掲示するだけでなく、研究室を通じて紙媒体で配付した。また、前年同様、専任の先生には学内メールを送信、非常勤の先生には Sophie に「メールあり」で調査期間中 2 度ほど Sophie に実施について掲示した。その結果、上記で示した通り、専任教員の授業評価実施数は 22 年度の 110 科目から本年度の 123 科目へと増加し、2024 年度も同様の水準を保っていたが、2025 年度は 107 科目と減少に転じた。一方、非常勤講師の評価実施数は 22 年度からの伸びは認められず、紙媒体で評価を実施していた時期の数字に戻る兆しは認められない。授業評価に参加した学生数については 22 年度の 8,023 名から 23 年度は 9,004 名へと 1,000 名ほどの増加が認められたが、24 年度に 8,200 名台に低下し、25 年度も 8,373 名と戻っていない。

3. 評価内容

2025 年度は調査項目の一部を見直し、変更を加えた。Google フォームでの質問内容は以下の通りである。

Q1. この授業への出席率はどうのくらいでしたか。

Q2. この授業のために平均何時間程度、予習・復習をしましたか。（本やインターネットで調べるなども含む）

Q3. 受講前からこの授業の内容に興味・関心があった。

Q4. シラバスの記載内容は、この授業を受講するうえで役に立った。

Q5. 教員の説明の仕方、話し方はわかりやすかった。

Q6. 授業中に使う教材（テキスト・配布資料・映像など）は学習の役に立った。

Q7. 毎回の授業内容の分量や速度は適切だった。

Q8. 授業に集中できる環境や質問、相談がしやすい雰囲気があるなど、安心して学習に取り組むことができる状況がつくられていた。

Q9. この授業を受講して、自らの知識や能力が向上したと感じる。

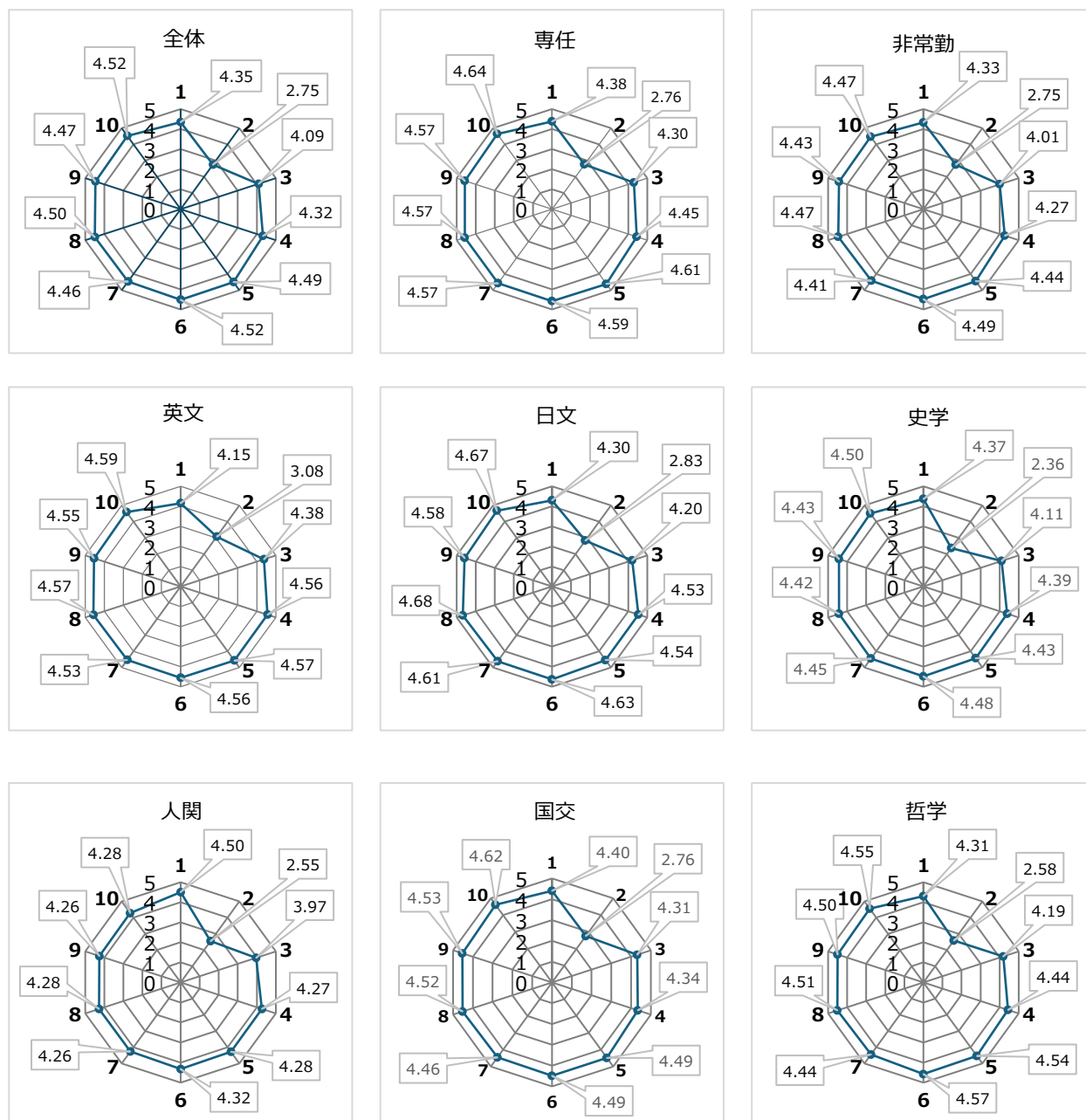
Q10. 総合的にみて、この授業に満足した。

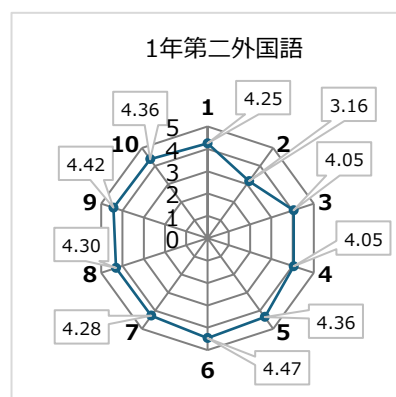
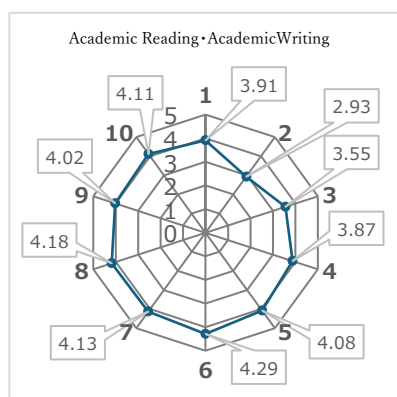
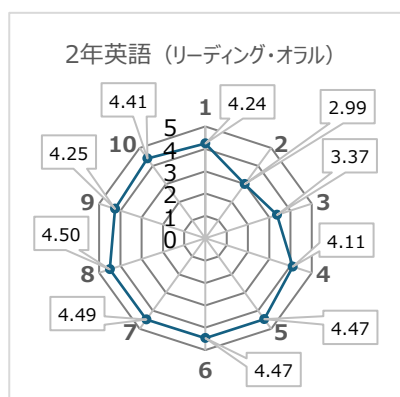
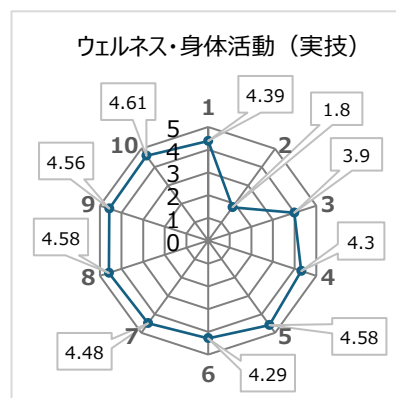
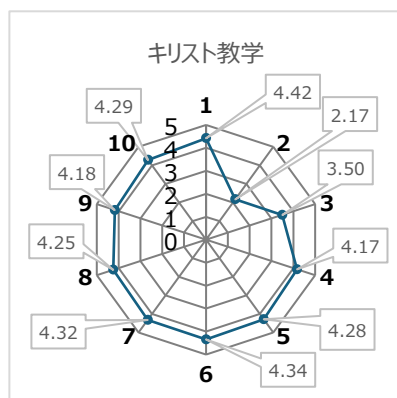
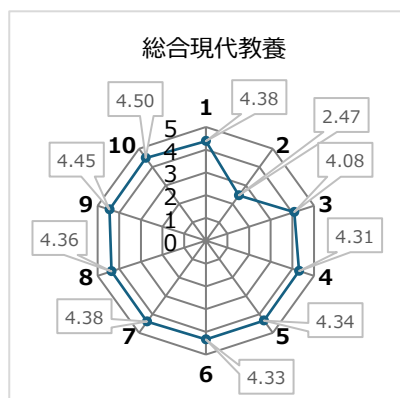
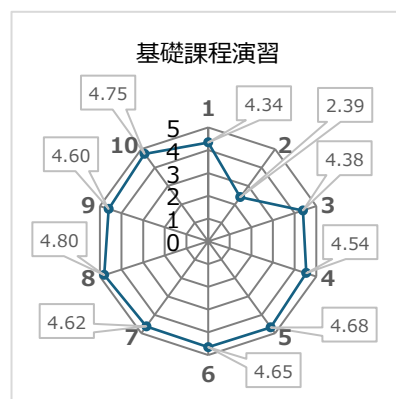
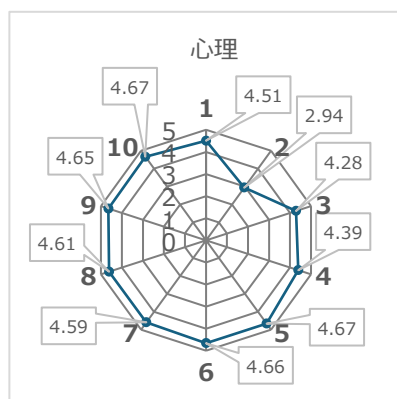
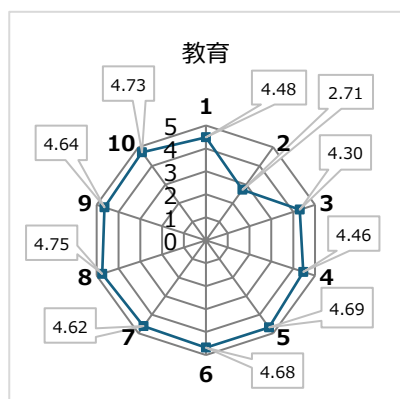
各設問への回答選択肢は次の通りである。

Q1 については、「すべて出席した、1～2 度欠席したがほとんど出席した、3 分の 2 程度出席した、3 分の 1 程度出席した、ほとんど出席しなかった」の 5 段階で、Q2 については「2 時間以上、1～2 時間、30 分～1 時間、30 分以下、0 分」の 5 段階で回答を求めた。その他の質問については、「よくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの 5 段階で評価してもらった。

4. 全体の傾向と学科別、全学共通科目別の比較

以下の図は、上記の 10 問に関して、授業単位での評価の平均ポイントの平均値を、学科や授業種別にレーダーチャートで示したものである。全体として項目の 2 の点数が低迷しているが、これは予習、復習の時間が平均して 1 時間弱程度であることによるものである。その他の評価項目に関しては、おおむね 4.0 を超える水準となっており、いずれの学科、授業種別においても受講生の満足度は高めである。



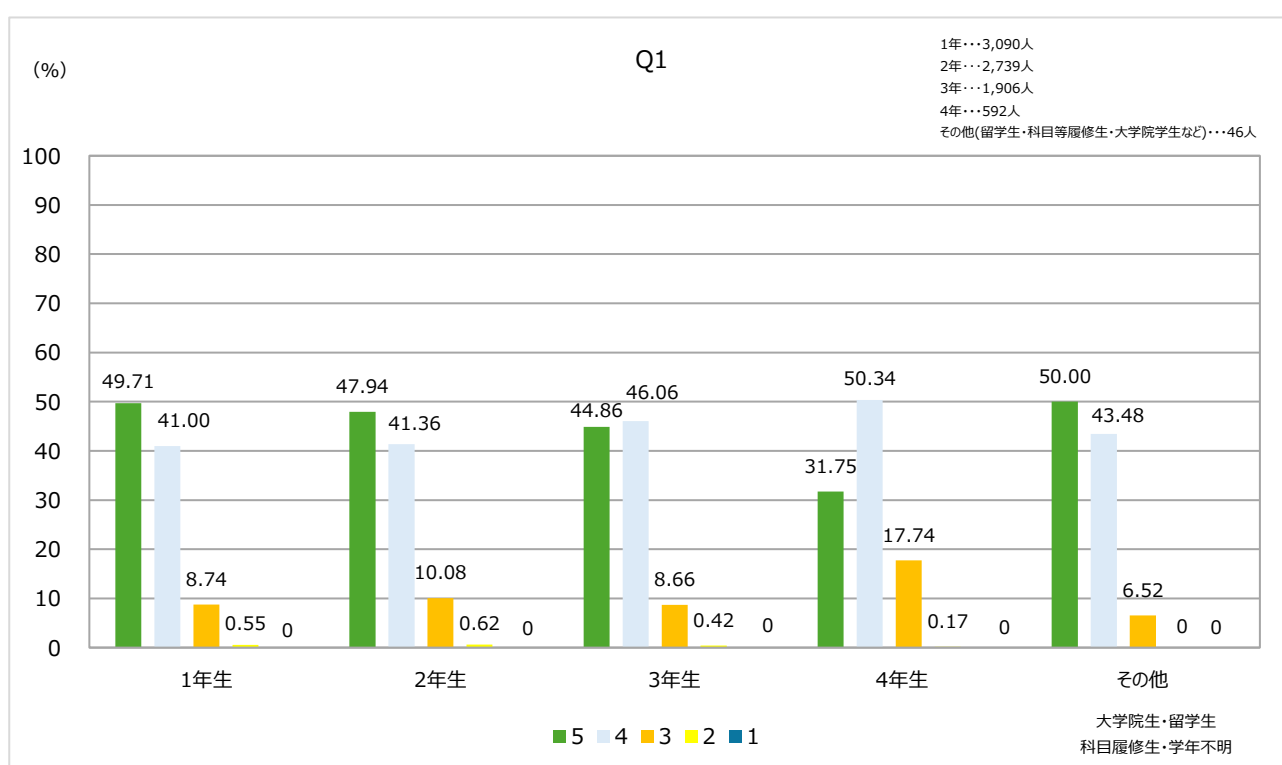


5. 学年別の評価傾向

以下は授業全体の各評価項目について、学年別に回答の分布を見たものである。

(1) 出席状況

授業への出席率は「すべて出席」は1年時でほぼ半数だが、以降は漸減し、4年生では3割に留まっている。ただ、「1～2度欠席したがほとんど出席した」まで含めるといずれの学年も9割から8割がこの範囲の中に収まっている。

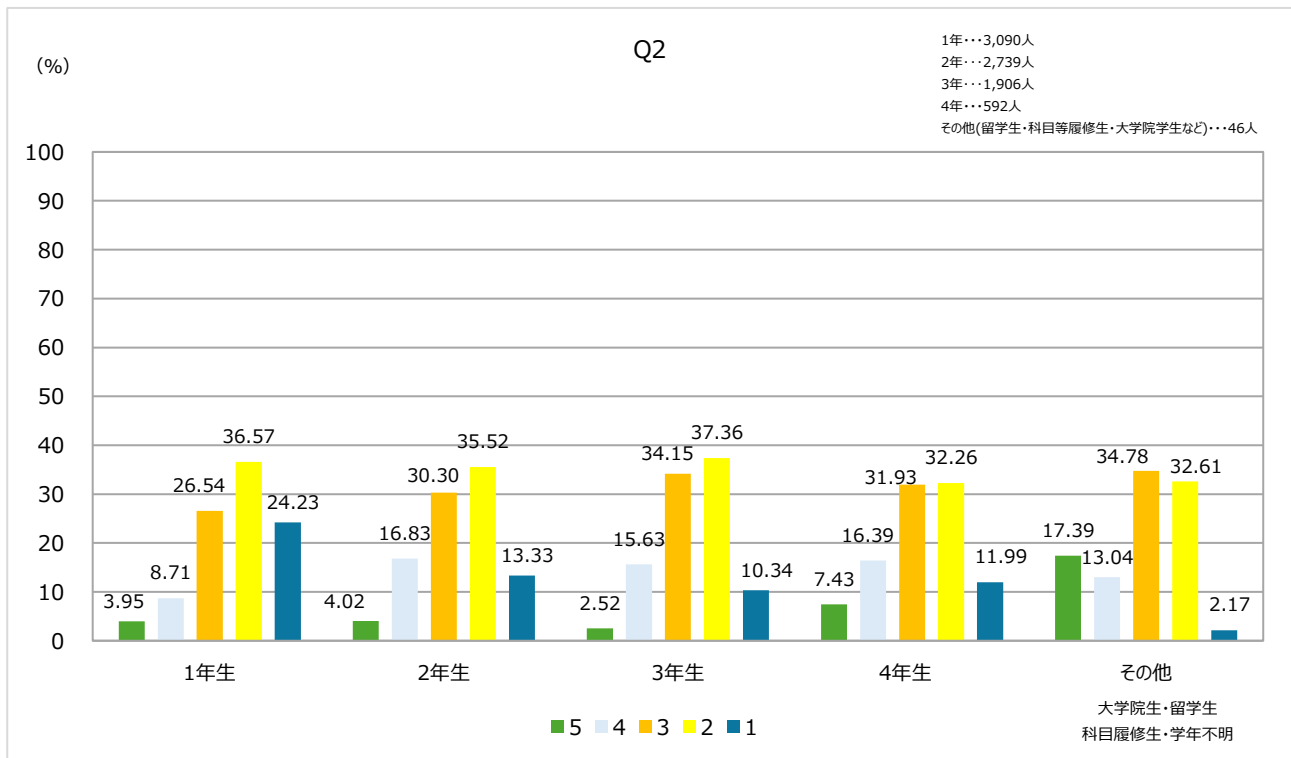


Q1. この授業への出席率はどのくらいでしたか。

5. すべて出席した 4. 1～2度欠席したがほとんど出席した 3. 3分の2程度出席した
2. 3分の1程度出席した 1. ほとんど出席しなかった

(2) 予習、復習時間

各授業における予習、復習時間は「週 30 分～1 時間」「週 30 分以下」に全体の 7 割程度が含まれている。ただ、1 年生においては 4 分の 1 が「週 0 分」と回答しており、学年進行とともにどう変化するかを注意する必要がある。

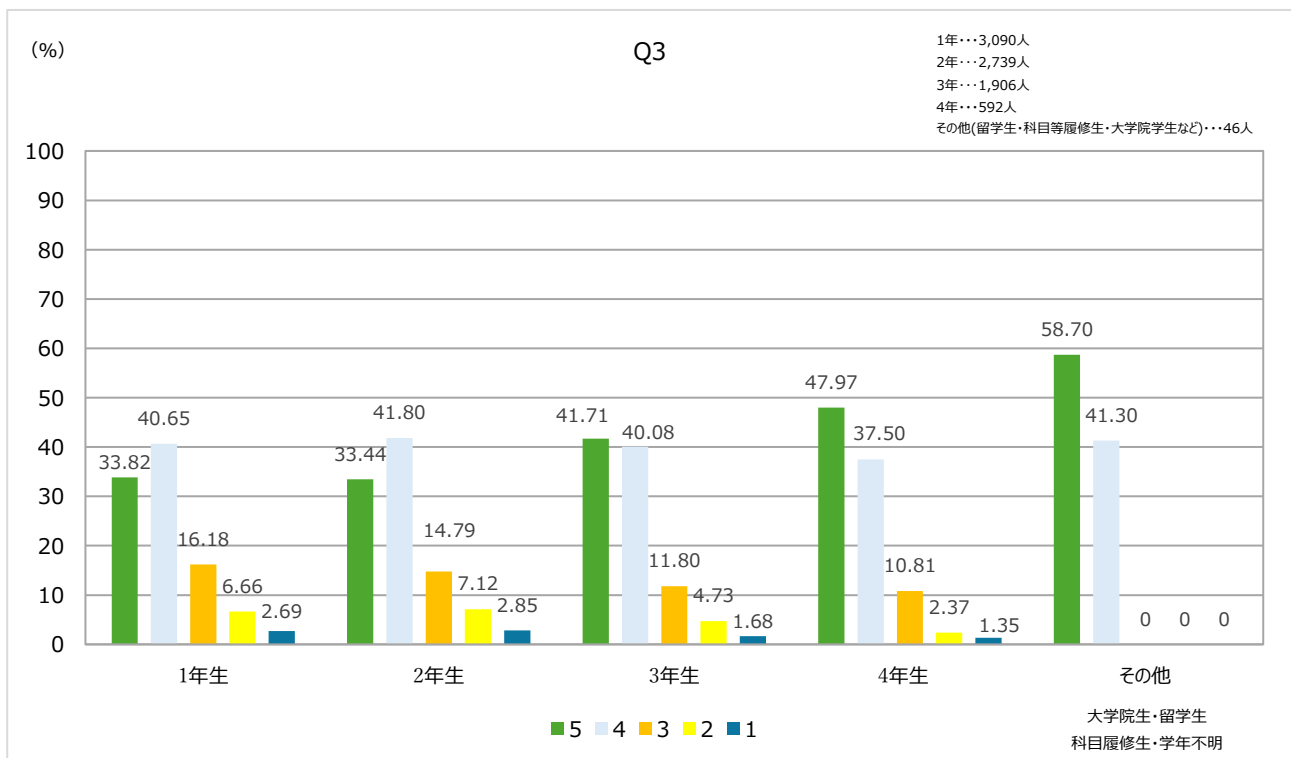


Q2. この授業のために平均何時間程度、予習・復習をしましたか。(本やインターネットで調べるなども含む)

5. 週 2 時間以上 4. 週 1～2 時間 3. 週 30 分～1 時間 2. 週 30 分以下
1. 週 0 分

(3) 受講前からの授業内容への興味・関心

「受講前からこの授業の内容に興味・関心があった」の項目に関して、「よくあてはまる」の比率は、1年、2年時で3割であるが、学年進行とともに漸増して行き4年生では6割弱に達する。ただ、「ある程度あてはまる」までを含めると、どの学年も7割以上が初期の段階から、関心を持って授業に取り組んでいると言える。

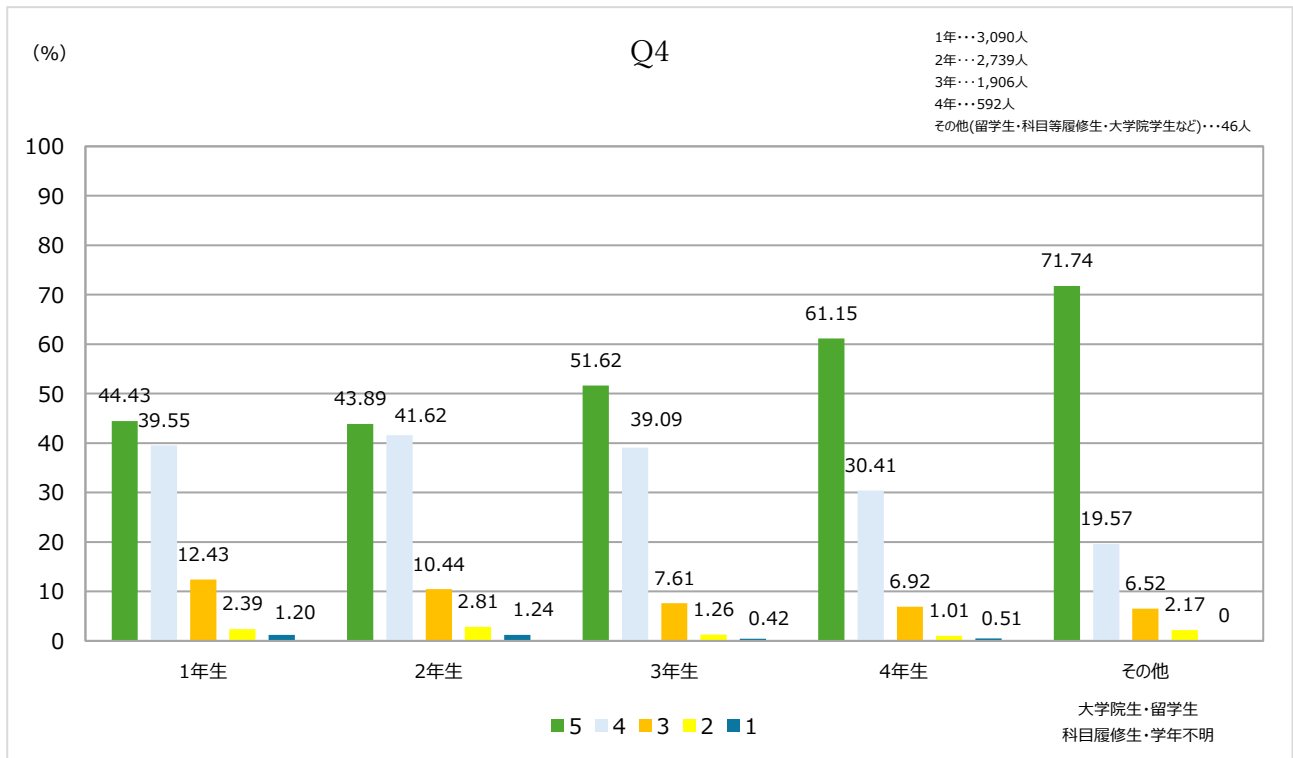


Q3. 受講前からこの授業の内容に興味・関心があった。

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 5. よくあてはまる | 4. ある程度あてはまる | 3. どちらともいえない |
| 2. あまりあてはまらない | 1. まったくあてはまらない | |

(4) シラバスの役立ち度

「シラバスの記載内容が役立った」との項目に関して、「よくあてはまる」の比率は1年で4割であるが、学年進行とともに増加していき、4年では6割となる。ただ、「ある程度あてはまる」までを含めると、いずれの学年も8割強から9割強が役に立ったと評価している。

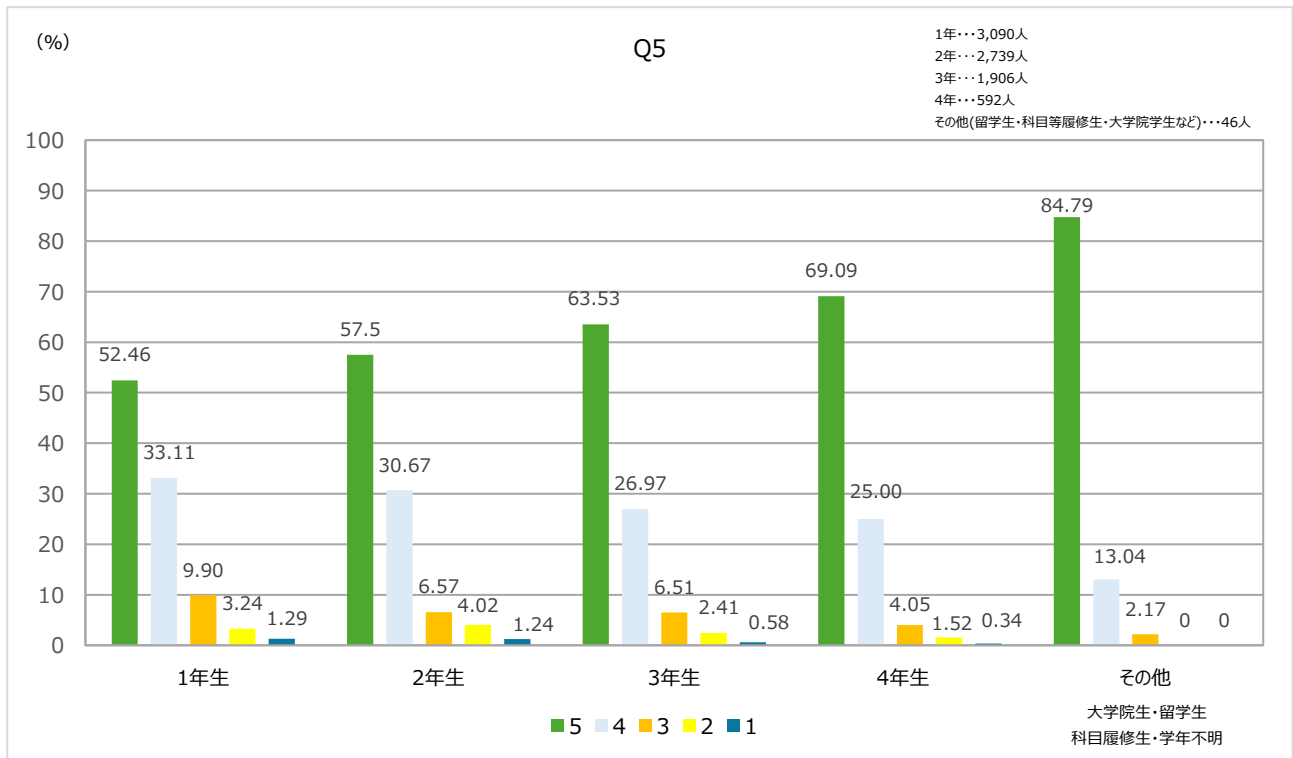


Q4. シラバスの記載内容は、この授業を受講するうえで役に立った。

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 5. よくあてはまる | 4. ある程度あてはまる | 3. どちらともいえない |
| 2. あまりあてはまらない | 1. まったくあてはまらない | |

(5) 教員の説明の仕方、話し方

「教員の説明の仕方、話し方はわかりやすかった」との項目に関して、「よくあてはまる」の比率は1年で5割であるが、学年進行とともに増加していき、4年では7割となる。「ある程度あてはまる」までを含めると、いずれの学年も9割強が教員の説明が分かりやすかったと評価している。



Q5. 教員の説明の仕方、話し方はわかりやすかった。

5. よくあてはまい

4. ある程度あてはまる

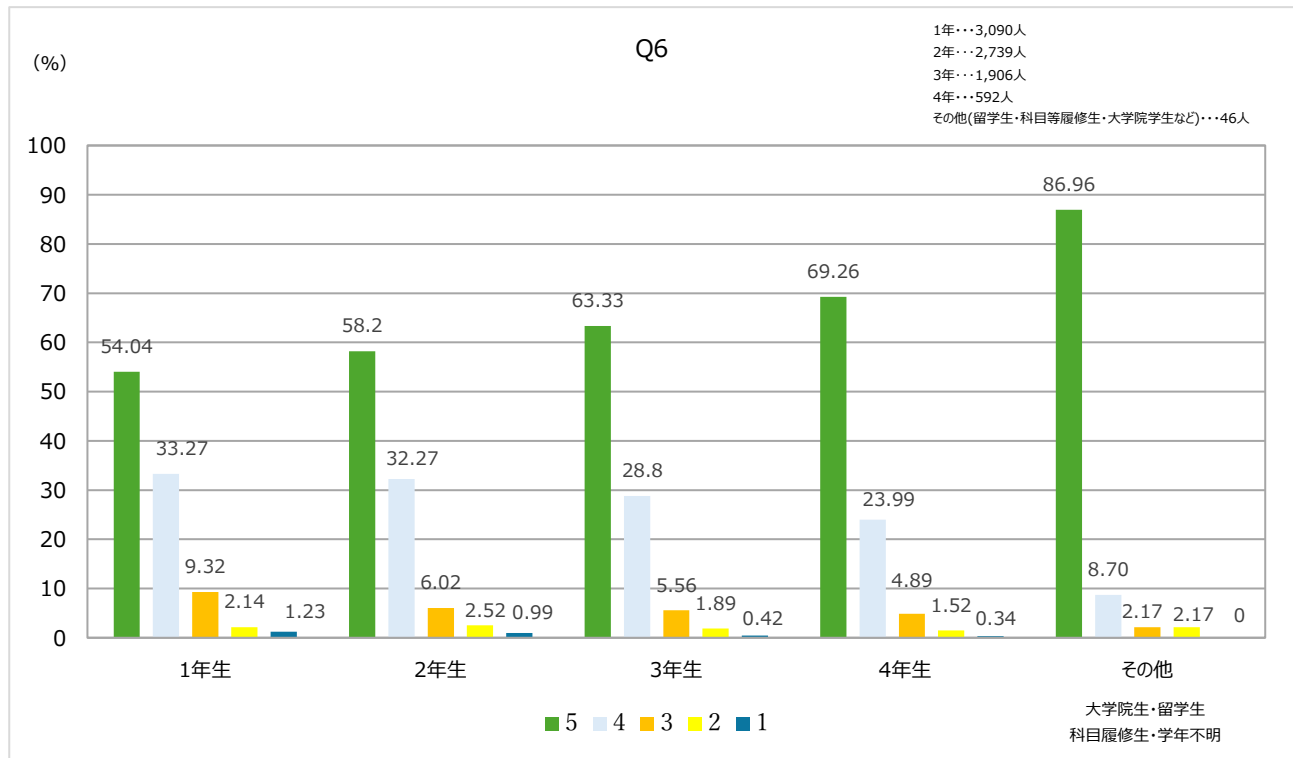
3. どちらともいえない

2. あまりあてはまらない

1. まったくあてはまらない

(6) 教材の役立ち度

「授業中に使う教材が学習の役に立った」の項目に関して、「よくあてはまる」の比率は1年で5割強であるが、学年進行に伴って増えていき、4年では7割程度になる。「ある程度あてはまる」まで含めると、どの学年も9割になり、教材に対する評価は全体に高い。

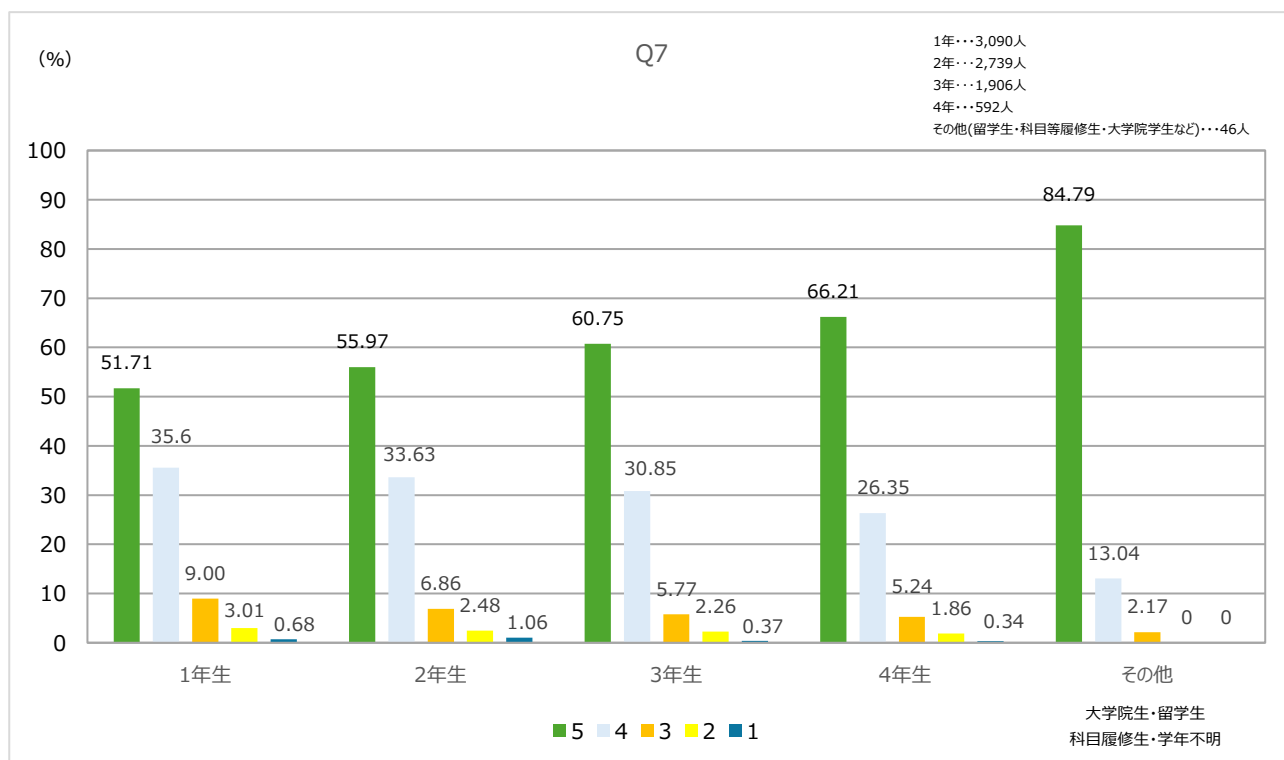


Q6. 授業中に使う教材（テキスト・配布資料・映像など）は学習の役に立った。

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 5. よくあてはまる | 4. ある程度あてはまる | 3. どちらともいえない |
| 2. あまりあてはまらない | 1. まったくあてはまらない | |

(7) 授業内容の分量や速度

「毎回の授業内容の分量や速度は適切だった」との項目に関して「よくあてはまる」との回答は1年で5割、4年で6割強とここでも斬増効果が認められる。「ある程度あてはまる」まで含めると、どの学年も9割になり、授業の分量や速度に関する不満は少ないと言える。



Q7. 毎回の授業内容の分量や速度は適切だった。

5. よくあてはまる

4. ある程度あてはまる

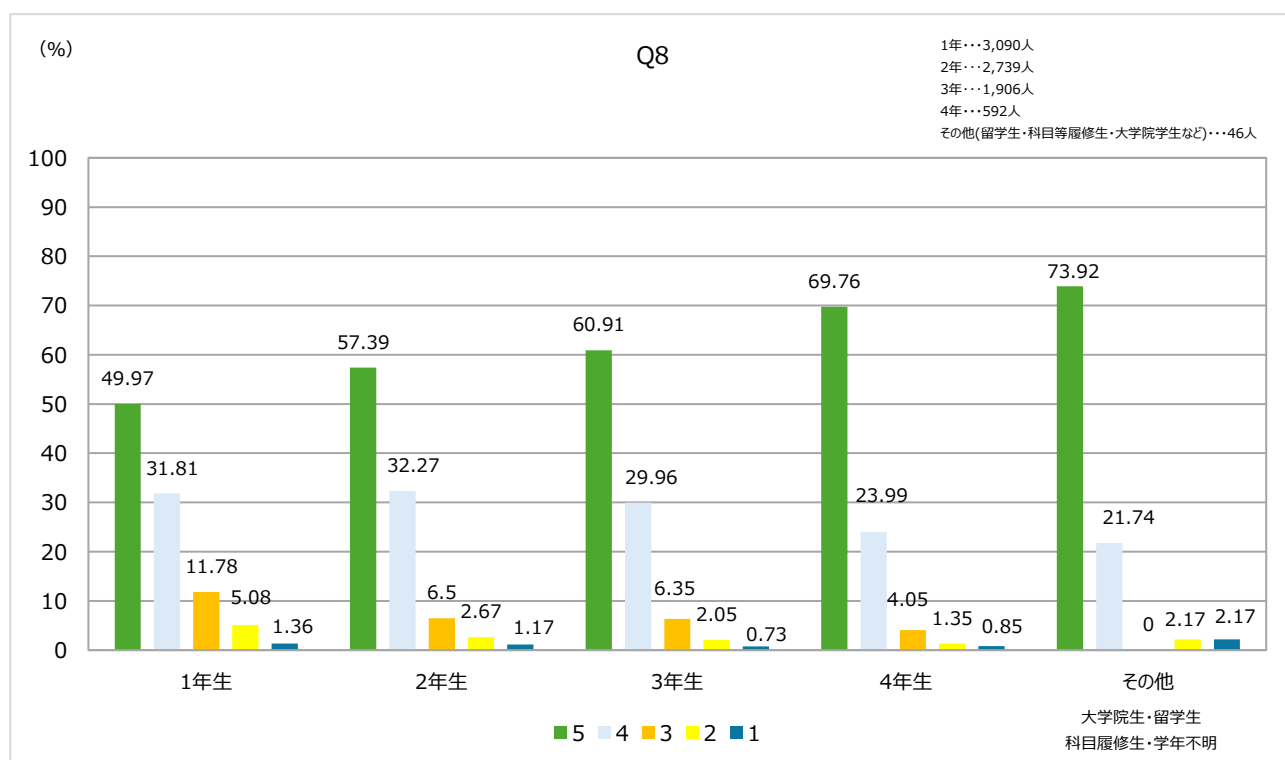
3. どちらともいえない

2. あまりあてはまらない

1. まったくあてはまらない

(8) 授業に集中できる環境

「授業に集中できる環境や質問、相談がしやすい雰囲気があるなど、安心して学習に取り組むことができる状況がつけられていた」との項目について「よくあてはまる」との比率は、1年で5割であるが、その後、学年進行に伴って増えていき、4年では7割に達する。学年が進行することによって、授業内容が専門化し、授業形態が少人数化することの効果も大きいと考えられる。

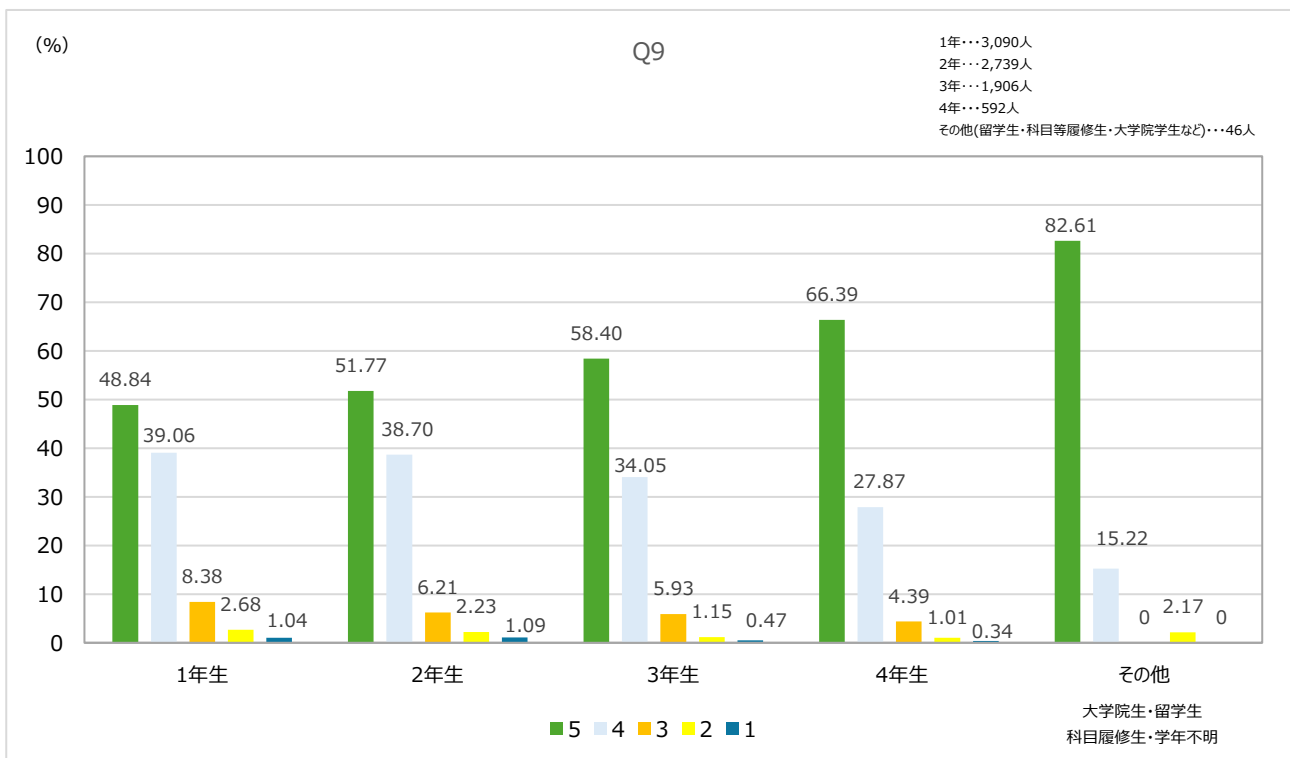


Q8. 授業に集中できる環境や質問、相談がしやすい雰囲気があるなど、安心して学習に取り組むことができる状況がつけられていた。

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 5. よくあてはまる | 4. ある程度あてはまる | 3. どちらともいえない |
| 2. あまりあてはまらない | 1. まったくあてはまらない | |

(9) 知識・能力の成長実感

「この授業を受講して、自らの知識や能力が向上したと感じる」との項目について、「よくあてはまる」との比率は、1年で5割弱であるが、4年にかけて7割弱と増えていく。ただし、各学年とも「ある程度あてはまる」までを含めると9割程度が該当し、多くが授業による成長実感を持っていると言える。

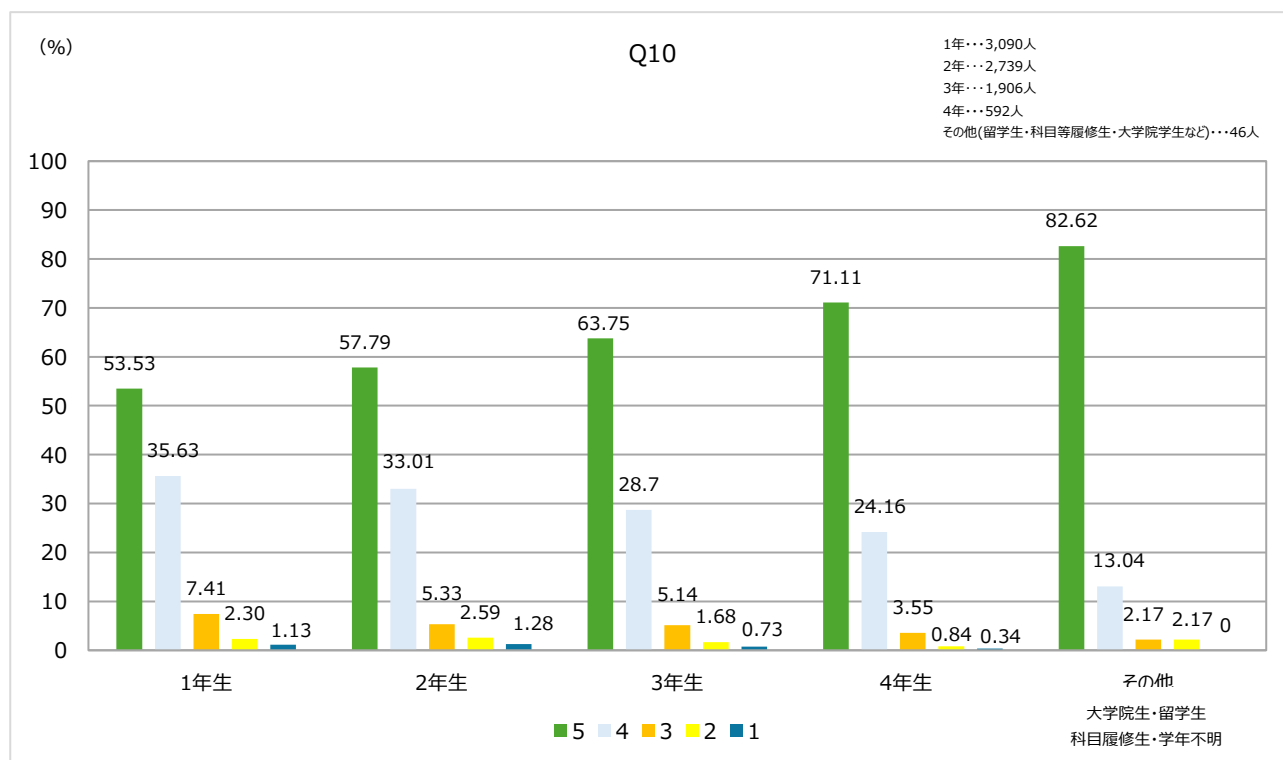


Q9. この授業を受講して、自らの知識や能力が向上したと感じる。

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 5. よくあてはまる | 4. ある程度あてはまる | 3. どちらともいえない |
| 2. あまりあてはまらない | 1. まったくあてはまらない | |

(10)授業への総合満足度

「総合的にみて、この授業に満足した」の項目に関して「よくあてはまる」との回答は1年次で5割強であるが、学年進行に伴って漸増し、4年次では7割になる。ただし、「ある程度あてはまる」までを含めるとどの学年でも9割が授業に満足していると言える。



Q10. 総合的にみて、この授業に満足した。

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 5. よくあてはまる | 4. ある程度あてはまる | 3. どちらともいえない |
| 2. あまりあてはまらない | 1. まったくあてはまらない | |

(11)まとめ

「以上、見てきたように予習・復習の時間が単位認定の基準からすると少し不足している点はあるものの、個々の授業に対する評価は、シラバスや教材の有用性、教員の説明、学習に集中できる環境の整備等において大半の学生が高く評価しており、その結果、授業を通じての成長実感を持ち、授業に総合的に満足度している。学年間で比較すると、学年の進行とともに上記の各指標に関しての評価が高まっている。この傾向は従来の授業評価結果からも確認されていることから、学生たちが学修経験に伴って、学びに対する適切な姿勢やコツを身に着け、より効果的に成果を得ている結果と解釈することもできる。

第2章 専任教員による授業報告書

学生の授業評価結果を受け、授業担当教員は下記の点について、自らの授業を振り返るとともに大学に対する提案を行うことで授業改善を図っている（巻末の報告用フォーム参照）。報告書の提出については2科目以上実施科目がある場合は、1科目の提出でも構わないことになっている。尚、本年度の報告書提出数は67科目であった。以降、専任教員の全体の傾向を見ていきたい。

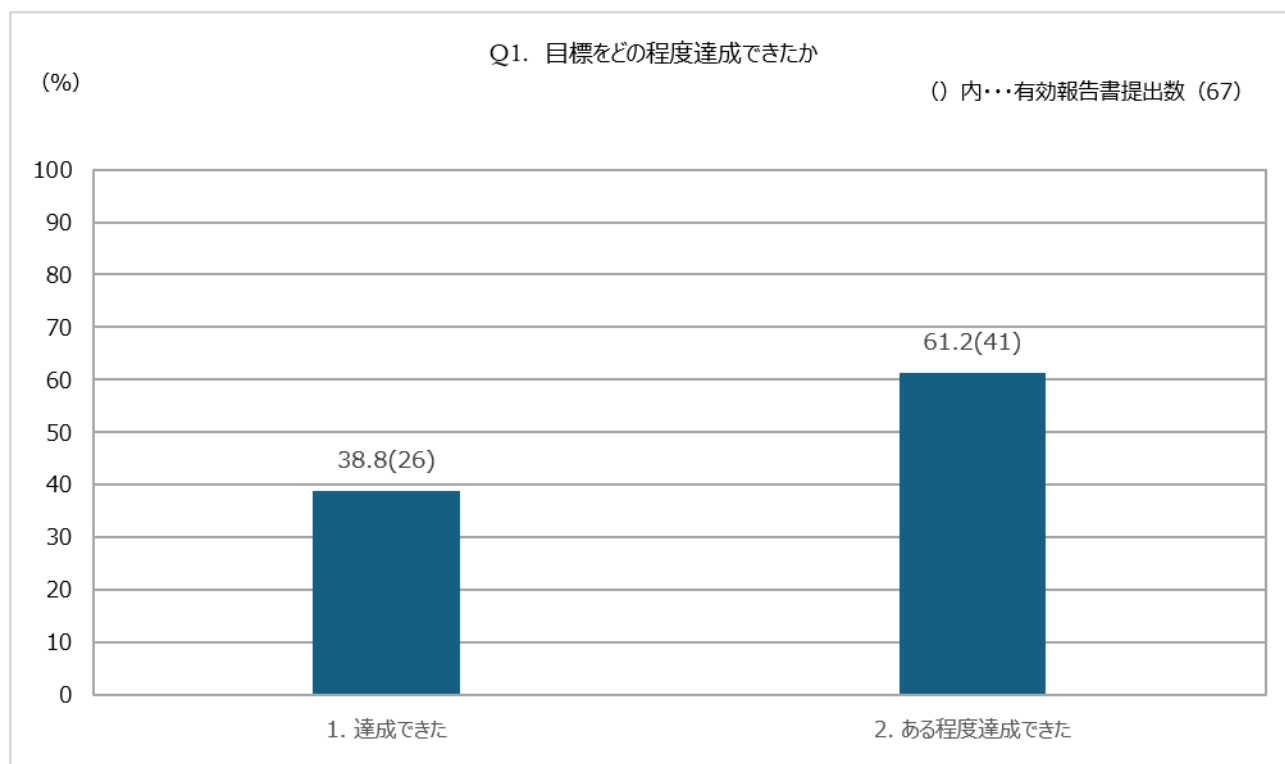
<事業報告の内容>

- ・授業目標の達成度認知
- ・授業の目標を達成する上で効果的な方法や工夫
- ・教室設備について（問題点等）
- ・教員個人が取り組むべきこと、効果的な授業方法、運営の仕方について
- ・学生の積極的な取り組みを促すために効果的だと思われる授業方法や工夫について
- ・学科や大学全体として取り組むべきこと
- ・授業評価に関する意見、提言
- ・その他

1. 教員による授業報告のまとめ

(1) 授業の目標達成度

専任教員に授業達成度を尋ねたところ、授業の4割弱で「達成できた」、残りの6割弱で「ある程度達成できた」と回答されている。専任教員の認識としては一部に課題を残しながらも、授業は概ね目標を達成できたと考えられている。昨年度に比べると大きな変化は認められない。

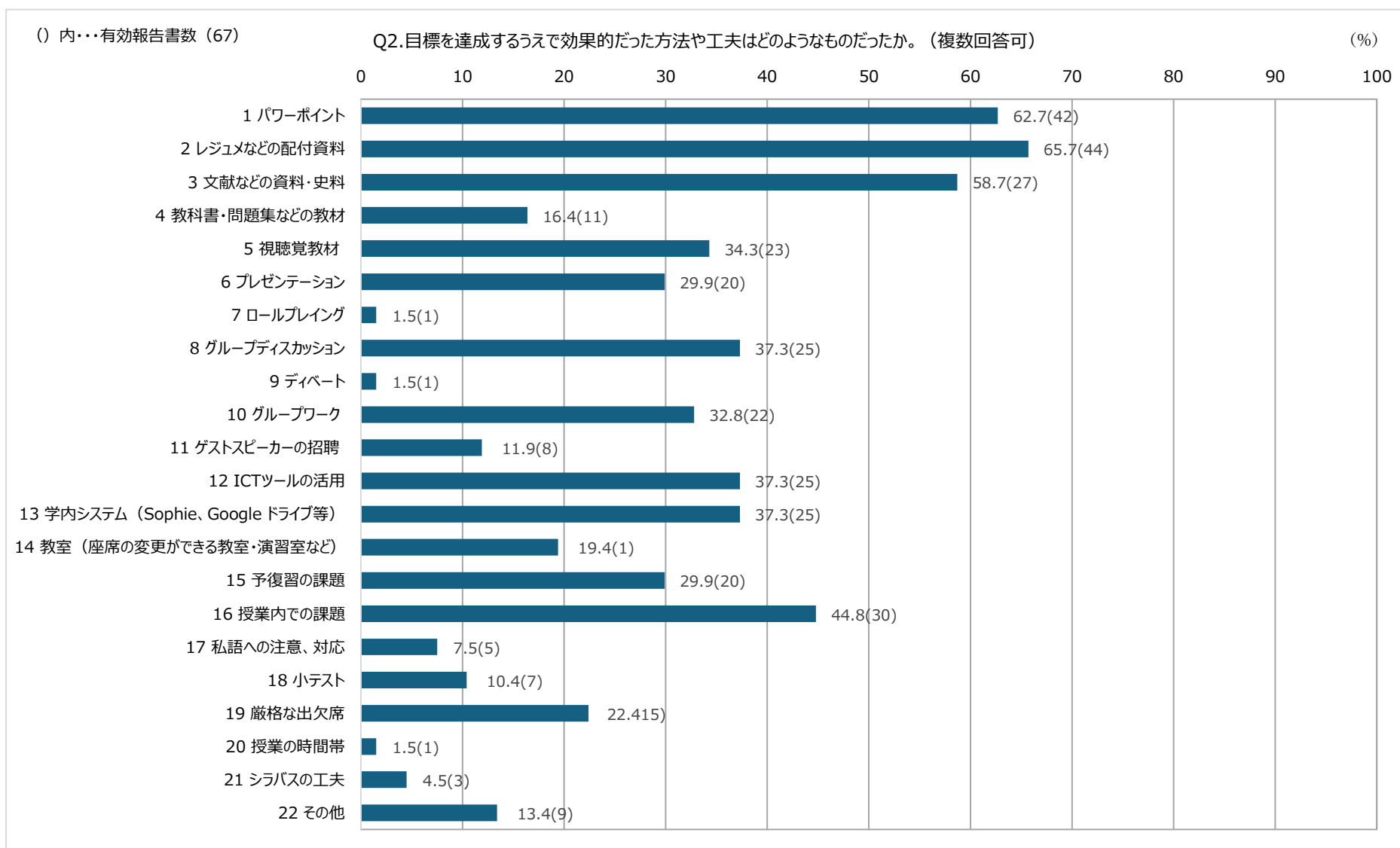


（２）目標を達成する上で効果的だった方法や工夫

目標を達成する上で効果的だった工夫・方法としては「レジュメなどの配付資料」と「パワーポイント」が６割台で並び、続いて「文献資料・史料」が６割弱、「授業内での課題」が４５％となっている。７３％と最も多くなっている。

２０２４年度と比べると、「パワーポイント」が７３％から６３％へとやや低下する一方、「文献資料・史料」が昨年の３割から６割と大きく伸ばしている点が注目される。ただし、今回、教員がどのような授業を評価の対象として選定したかに依存する点にも配慮する必要がある。その他の項目に関しては特に大きな変化は見当たらない。

尚、１３％の授業で「その他」として何らかの方策があげられた。具体的には下記の内容になる。件数としては少ないものの、今後、教員が効果的な教育方法を新たに導入する上で有用な情報が含まれていると考えられる。



22.その他（以下の回答あり）

ディスカッション

フィールドワーク、実技

音読

学外学習（フィールドワーク）

実技、体験学習

新入生の実情に合わせた情報提供

二度の学外研修

頻繁な声かけ

毎回、質問に答える Q&A の作成・配布

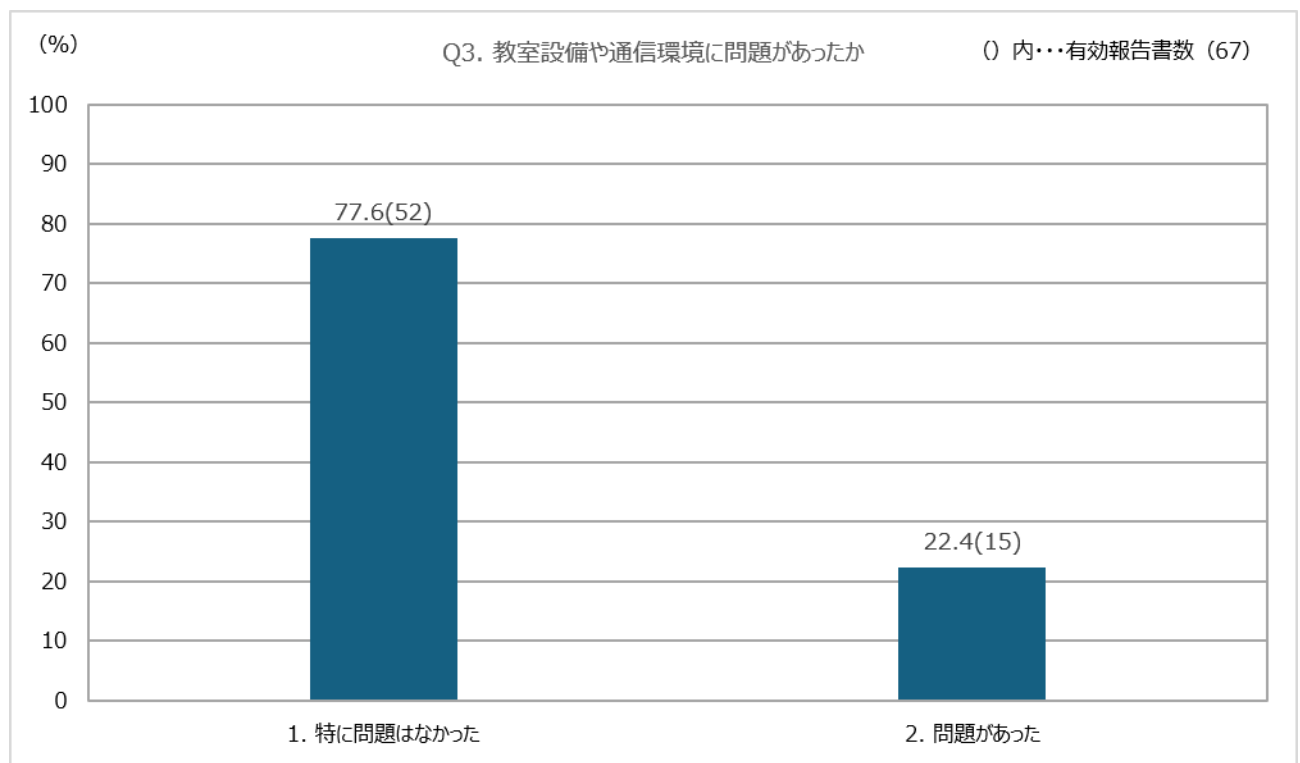
(3) 各教員からのコメント

教室設備について（問題点等）、教員個人が取り組むべきこと、学生の積極的な取り組みを促すために効果的だと思われる授業方法や工夫について、学科や大学全体として取り組むべきこと、授業評価に関する意見、提言、その他の各項目については自由記述形式で回答を求めた。

以降はこれらの項目ごとに、各報告をまとめている。教員名、授業名は伏せているが、原則、プライベートな情報以外は原文のままを掲載している。

1) 教室の設備

教室設備については、8割弱が「特に問題はなかった」と回答した。一方、「問題があった」と回答した約2割の内容は、下表に整理した。中でも、プロジェクターに関連する不具合に関する指摘が目立った。



Q3. 教室設備（空調・ICT 機器・マイク等）や通信環境に問題はありましたか。（問題があった教室）	
	学内の wifi 環境自体の問題ではありませんが、オンラインのゲーム制作プラットフォームに接続する際のセキュリティ強化のため、同一 IP アドレスから一定数同時時間帯に接続すると難しい Captcha 認証が課されるという事態になったので、自前のポケット wifi を用意して問題を回避した。（この件は情報化推進課と情報共有済み）
203 番教室	一部のカーテンが閉まらない。
341 番教室	教卓パソコンの HDMI 接続コードが短いため抜けやすく、プロジェクター投影が安定しない。
342 番教室	題というわけではないのかもしれませんが、受講人数（28 名）に対してかなり教室が広く、席を決めて前のほうに座るよう促していても後方に座りたい学生が多かったように思います。
213 番教室	PowerPoint をプロジェクタで投影したのですが、カーテンを閉め、教卓の電気を消灯しても見づらいという意見が多数あり、結局教室の全電気を消して授業を行いました。学生からは PowerPoint はよく見えたと好評で、ノートをとるのにも支障はないとのことでしたが、手元の資料が見つらく、講義しづかったため、プロジェクタの鮮明度などを再確認していただけると大変助かります。
4-6 番教室	
4-2 番教室	廊下側に柱があるという構造上、仕方がないのかもしれませんが、この教室は小さなディスプレイがあるのみでパワポを映すスクリーンがなく、学生は座席によってはホワイトボードも、ディスプレイも何も見えないというひどい教室だと思います。アクティビティには適していても、講義形式の授業には全く適さない教室だと思います。
1 号館 4 階の教室	細長く学生との距離が遠い。さらに黒板も小さく板書がしづらい。プロジェクターなども使えず、学生への掲示が困難。
203 番教室	プロジェクタの輝度が低く、照明を落とさなければならなかった。また、教室の後方からは見えづらかったようである。新しいものに更新した方がよいように思われる。
400 番教室	スクリーンと座席の距離によって、スライド等が見づらい状況が生じた。
	マイクが混線しており、他教室の音声スピーカーから出る現象がたびたび生じた。
学習支援センター	備品 PC で学生個人アカウントでのログインにエラーがでた。情報企画推進課職員にご対応いただいた。
204 番教室	無線マイクの電池切れが時折見られた。授業を実施するには狭いが何とか一方、テストをする際にはスペースが足らなかった。
204 番教室	プロジェクターのランプが暗く見づらいことがあった。
アクティビティ・スペース	学生から何度か wi-fi がつながらないとの指摘がありました。

2) 教員個人が取り組むべきこと

各授業において、効果的な授業や運営を行うため、教員個人が取り組むべきこととして下記の内容が報告された。

① 教員個人が取り組むべきこと、効果的な授業方法、運営の仕方について（ご自身のことでなくても結構です）
グループディスカッションとプレゼンテーションはあまり嫌がらず準備をしてくるようだ。
プログラミングは内容的に難度が高いため、説明を小分けにして頻繁に学生の達成状況を確認しながら進める必要がある。
大教室の後ろの方で私語をする学生をなくすことが難しい。あまりしなくなかったことだが、座席の指定等も考えなければいけない。遅刻、多数の欠席、課題の不提出が近年目立つようになり、一教員だけでは対策が必要である。
特講の「英語による講義」を続けてきているが、ここ数年、学生達の理解度にかかなりの差が開いている。授業内での声かけやスライドの工夫をしているが、現在の中間・期末試験の評価形式を変更するなどの検討の必要性を感じている。
学外でのフィールドワークは理解度の促進やクラスの雰囲気向上に効果があり学生にも好評だったが、実施のための事前準備や事後の振り返り等の時間を計画した以上を取る必要があった。学生の時間外学習（予習・復習）や準備度合の差が激しく、それを頼りにした授業展開が困難になることもあるため、自発的な学びや気づきを阻害しない程度の導きと授業参加へのモチベーションを維持向上させる方法を考えたい。
英語で文学作品を読んだ経験がない受講生が多い状況で、どのように学生の関心を喚起するかという工夫を重視する必要を年々強く感じている。本授業で扱ったのは、AI ロボットと 10 代の少女の友情を描いた作品であったために受講生は興味をもちやすかったと思うが、いつの時代に書かれたどのような作品であっても、学生の興味関心を刺激できる作品へのアプローチを考えたい。
・今年度はグループ作業を好む受講生が比較的多く、教室が広いことで後方や離れたところに座ろうとする学生もみられたため、グループワークを積極的に取り入れた。ただし、再履修者や支援パスポート所持者など、グループでの活動に不安を感じる学生がいることも考慮し、学生のように応じて個人作業も選択できるようにした。 ・前方に座っている学生と後方に座っている学生、両方が授業に参加しているという意識を持ち、質問があればすぐに教員に聞くことができるように、授業では毎回教室を複数回まわって全員に声をかけるようにした。アンケートでは「取り残されずについていくことができました」「普段の講義では分からないところが見つかった時や英語の表現が適切かどうか迷ったときに先生に気軽に尋ねることができて、とてもありがたかったです」というコメントがあり、授業でわからないことがある際に教員に質問できる安心感を求めている学生が多いことをあらためて理解した。
・グループワークの分け方に注意した。演習のため前期からグループワークを積極的に取り入れていたが、授業外での友人関係に影響されてグループワークで思ったように作業できないという受講生がいたため、グループが固定され様々な人と作業する機会を持てるよう心がけた。同時に、上記のような学生には授業外で個別相談の時間を設けた。

① 教員個人が取り組むべきこと、効果的な授業方法、運営の仕方について（ご自身のことでなくても結構です）
・英語テキストの音読を積極的に取り入れた。集中力が途切れて私語がみられたり、テキストを正確に読んでいない場合もあったため、全員に音読をさせるようにしたところ、英語を集中して読む力の向上につながった。
・毎回の授業は導入となる視聴覚資料（文学作品の翻案としての映画、歌、CM など）を数分間見せる／聞かせることからはじめ、英語に抵抗がある学生にも、文学作品に親しみを持ってもらえるよう心がけた。時間は 2-3 分、長くても 5 分程度のごく短いほうが、集中でき効果的なようである。 ・毎回授業終わりに一問一答の小テストをおこない、授業内容を振り返ることができるようにした。期末試験のための復習に役立てる学生が多いようだった。 ・授業内で使用したスライドは、授業後に Google Classroom に掲示し復習に役立てられるようにしたところ、授業中の学生の集中力も向上したように思われる（昨年度の授業では、授業内で見せたスライドをそのまま Google Classroom に掲示することはせず、希望者のみ英文研究室で閲覧できるようにしていたが、そのためか授業中にノートをとるよりもスライドの写真をスマホで撮ろうとする学生が多くなってしまっていた。今年度はあとで Classroom で見返せる安心感からか、授業中にノートをとっているようすがあった）。
グループワーク、個人作業を適度に組み合わせる。 最初の発表は教員が事前にチェックし、実際の発表で成功体験を作る。2 回目以降は学生に任せる。
新入学生は学修の前提となるツールや技術を持っていない（または個人差が大きい）。たとえば、PC に Word がインストールされていない、Word の使い方を知らない、など。教室で実情を見て、柔軟に情報提供をしたり、学生同士で教え合うワークの時間をとる。
内容がマニアックになりすぎないように気を付けている。
授業冒頭に前回のアクションペーパーに答えながら内容の復習をすること。授業中に 5 分の小休憩を入れること。その日のキーポイントを文章にまとめさせて、翌日中にアクションペーパー（Google フォーム）を提出させること。
自分が現役の研究者であり続けること
時間の厳守、質問に対する細かい回答、静謐な授業環境の維持といった基本の徹底であると考えます。
今回は受講者数が多すぎ、授業参加記録用紙に記入された感想や質問に対し、毎回コメントや回答を書くことができなかった。今後は講義科目を研究室抽選とし、ある程度人数をしばって受講者それぞれ個別に指導や対応ができるようにしたい。
受講者が多い科目でも、学生の声が授業に反映できるようにすること。
学生がどれくらい授業内容を理解しているかを把握しながら進めていくことが重要と考えて、授業運営に取り組んでいます。そのため、授業内外の課題は必要です。
毎回、知識の復習のための小テストを実施した。資料を見直せば解答できる内容だが、それが知識の理解や定着に役立ったという声が多かった。 また、授業中に、Google フォームを用いて簡単なデモンストレーション実験を行い、受講生の結果を使いながら理論を説明することで、理論の理解に役立てた。

① 教員個人が取り組むべきこと、効果的な授業方法、運営の仕方について（ご自身のことでなくても結構です）
後期の3年ゼミは個人発表が中心の授業構成となるが、インターンや就活などと重なり全員が揃わない事も何度あった。しかし夏のフィールドワークのまとめをし、文献研究を行いながら卒論執筆を開始する重要な時期であるので、出先からオンラインで参加する事も可能とし、なるべく毎回、全員と顔を合わせるようにした。
オムニバス形式の授業であるが、学生からは教員がかわることが新鮮で、いろいろなことが学べたと好評であった。
Q4以降の学生から評価に関しては概ね6割が「よくあてはまる」、3割が「ややあてはまる」との回答であり、学生の満足感が高かった。ただし、「どちらとも言えない」も1割弱程度あることから改善の余地は大きいと思われる。特に、女性の意識を扱う内容が多いことから、学生のリアクションペーパーを分析し、疑問や異論等を丁寧に拾いながら、互いにより深い考察ができるような工夫をしていきたい。
学生とインターラクティブな内容にすることで、学びが定着し深まると感じています。
演習では特に、学生一人一人の状況に応じた指導が必要だと思われる。
学生の目線や意識、レベルに合わせた教材や授業、進行を考えることが必要。対面で実際にコミュニケーションを取ることも欠かせない。そのためには、学科の必修授業で複数の教員が担当することも大切だ思うようになりました。
学生自身の関心に基づいて、調べたりして、自分で考える活動を行うことが有効だと思います。
講義資料の事前配布は、想定していた以上に効果的だった。
学生の理解度や授業への関心を把握するうえで、日常的なコミュニケーションは不可欠である。学期末に実施する授業アンケートのみでは、その目的を十分に達成できない可能性がある。したがって、リアクションペーパー等を通じて学生の声を継続的に収集し、対話的にフィードバックを得ることが重要である。 また、教員には、学生が自由に意見や考えを表現し、新たな考え方に主体的に取り組める学習環境を整える責任がある。そのためには、教員による講義と学生同士のグループワークとのバランスが重要であり、いずれかに偏りすぎることは学習効果を損なうおそれがある。
適切な講読用教材の作成
学生の興味関心を惹起し、今後の学生生活に必要な、基本的な学術的スキルを身につけることができるよう、教材を工夫する。レポートの書き方や改善の仕方については、明確かつ分かり易い伝え方を工夫する。
最先端の事例の収集。同一宗教内の多様性への気づきと、それを学生に伝える工夫。
アンケートの自由記述では、一回の授業の中で扱うトピックが多く、進度について行けないとの声が聴かれた。授業の分量、速度に対する回答について適切と回答した（「よくあてはまる」と「ある程度あてはまる」）学生の割合は85%に留まっており、分量と進度については再考する必要がある。
グループワークやディスカッションの進め方について改善の必要がある。
「受講前からこの授業の内容に興味・関心があった」との設問に「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」との回答した者の割合が25%に上るが、授業に対する総合的な満足度は高い。一方で、毎回の授業の分量・速度が適切かとの設問に対して「あまりあてはまらない」と回答した者の割合が8%であり、授業の分量については再考したい。

① 教員個人が取り組むべきこと、効果的な授業方法、運営の仕方について（ご自身のことでなくても結構です）
当日に用いるテキストについて授業前に必ず予習し、また授業内で個人の意見を言うための材料をあらかじめ用意することができるよう、事前にテキストを読んでコメントを Google Classroom で Form を使って提出するように求めている。そのコメントは事前に教員が目を通し、重要と思われる指摘について下線を引くなどして Classroom に授業前にアップし、全員が全員のコメントを確認でき、また授業内での発言の際のポイントを示すようにしている。
多様なレベルや関心を持った学生が多数参加する授業は、講義をする側にとっても焦点を合わせづらいところがある。常に学生の反応を掴むよう心がけ、必要があれば授業内容を適宜調整したり、理解を促進するための補足資料や課題を提供していくことが求められる。
学生の興味や関心の度合いを把握すること。良い意味での親密さ。
授業の性質上、教材研究は必須。学生の興味関心を事前に把握することも授業運営には重要。
動画は使用しないが、資料を予習として読んできて、授業時間内には予習をもとにしたディスカッションを行う反転授業を行った。本科目におけるディスカッションベースの授業の課題を丁寧にとらえ、次年度の授業に活かしたい。
専門知識の中に時事的な問題なども取り入れて、学生が生きる時代にあうテーマを常に取り入れていくこと
学生自身が授業内容を自分の言葉で咀嚼するために、理解深化のための思考・対話に従事しやすい流れで各回授業を組み立てる。2 年後期ゼミの特性として、学習科学というディシプリンの特徴が体験的に学べるように 14 回の流れを構築する
演習授業であったので、できるだけ事例を用いて、グループディスカッションを行った。
一方向的に話すだけの講義では退屈に感じる学生も多いので、学生の積極的な参加を促す必要がある。
学生が発表する文献の事前確認、学生の関心に応じた文献の紹介等
学生の人数が多いと、学生自身に考えさせたり、ディスカッションをさせる機会を持つことが難しくなるため、より工夫する必要があると考えている。
今回、学生からの授業評価で「私語をしっかりと注意してくれたことがありがたかった」というコメントをいただいた。私語を気にする学生がいること、そして、そういった学生のためにも、目立った私語を注意することが重要であるということを確認した。次年度以降も、配慮の必要な受講生が現れることと思うが、修学支援パスポートの有無に関係なく、配慮の必要な学生の声を丁寧に聴き取り、可能な範囲で授業内容や方法を調整するべきと感じている。
心理学科を含む 8 学科の学生が受講する授業であるため、心理学科以外の受講生も理解しやすかつ心理学科の学生にとっても役立つ内容を目指すことが継続課題である。
この講義は 3 名（教員・心理臨床の実践家 2 名・ジャーナリスト 1 名）で実施し、かつ、ゲストスピーカーもいらしていただいたので、多様な側面から周産期の基本的事項～心理臨床まで幅広く学んでいただくことができたように思います。
・初回の授業（オリエンテーション等）で履修生の授業に対する要望等を聞けるようなアンケートの実施。アンケート結果を反映した授業づくり。教員と履修生ともに学び合える体制づくり。 ・グループワーク、ディスカッション等の活用 一方向的な授業にならないような工夫が求められているのだと思います。

① 教員個人が取り組むべきこと、効果的な授業方法、運営の仕方について（ご自身のことでなくても結構です）

オリエンテーション等での事前アンケートは履修生にあった授業内容へ反映できるため、非常に参考になった。学生の理解度を確認しながら、グループごとの進度に合わせて運営することに心掛けること。

② 学生の積極的な取り組みを促すために効果的と思われる授業方法や工夫について

毎年構成員によって全く異なるが、2025 年度は学生の意見を取り入れグループディスカッションの機会を多く取り入れたのは比較的良かったかもしれない。

教員の PC をスクリーンに表示して、作業課題が明確にわかるようにする。

授業内容に関する課題を毎回 Google Classroom に提出させる。きちんと取り組めば効果がある。

講義授業(70 名)ではあったが、ペアワークや練習問題を積極的に取り入れたことが効果的であった。学生からも「授業内で手を動かして考えられる問題が用意されていたこと」、「(トピックが変わる時に) 確認問題を行い、ペアワークを通して意見交換できたこと安心して授業が受けられた」との感想があった。

(A) 知識構成型ジグソー法の応用

初めての試みとして、知識構成型ジグソー法を応用した授業とした。4 回の授業を一つのサイクルとして、12 週の授業で、①-⑥を 3 サイクル繰り返した。

- ① テーマ別にグループ分け。
- ② 毎週、各自で事前課題の範囲を読み進める。気になった箇所についての考察、疑問点を事前に Google ドキュメントに提出。
- ③ 授業前に、②をグループ別にまとめなおした PDF ファイルを Classroom で共有。
- ④ ③に基づいて、グループディスカッション。各グループは、自分たちのテーマについて考察を深める。
- ⑤ 3 回の授業を通して、各グループは自分たちのテーマについてスライドを完成、発表準備をする。
- ⑥ グループを分け直し、④のスライドを新グループで発表、説明する。

学生からは、以下のような感想が寄せられた。

- ・「[新しい]班に行ったときに自分の言葉で説明できて理解が深まりました。」
- ・「全く内容を知らない[新しいグループの]人に話すとなると、今まで以上にしっかり自分で内容を理解しておかなければならないという認識が生まれ、より精一杯取り組むことができました。」
- 「自分だけの知識だけではなく、力を合わせることで新たな知識が表れていくことがよかった。」
- ・「別々の視点から同じものを見ることが出来たので知見が深まったと思いました！」

(B) 学生全員の事前課題回答へのフィードバック

毎週、Classroom で事前課題回答を共有し、授業初めに紹介・解説した。共有の際、各学生の考察の中心部分は太字に、優れた指摘、示唆に富む意見はピンクの字にすることで、他の学生がポイントを把握しやすいように工夫した。学生からは以下のような感想があった。

- ・「毎回の課題で深く考え、次の授業でフィードバックを受ける構成がとても良かったです。ピンク色の文字になって紹介された時は、いつも内心とても喜んでいました。」
- ・「毎週英語で読むのは大変でしたが、自分でよく考えて感想を書いたり考察をすることが楽しかったです。」

② 学生の積極的な取り組みを促すために効果的と思われる授業方法や工夫について
プレゼンテーション、ディスカッション、データ分析、フィールドワーク、振り返りなど様々な方法でグループワークを行い、お互いの学びや理解度を共有する機会を作ること。この授業ではグループを頻繁に変えたことで、クラスメートを良く知ることができたというコメントもあった。 授業で学んだことをレポートやテストによる振り返りだけでなく、ポスターやマップ作りなどの制作の形にしたことで、学んだ内容を新たな視点から考察することができたようである。
・特定の学生が率先して話すグループディスカッションよりも、グループまたはペアで、授業で学んだことをもとに英語の造語をつくる、英語のガイドブックをつくる、など話し合いながら手を動かす作業のほうがやる気を出す学生が多かった。普段あまり発言しようしない学生、眠ってしまう学生、英語に苦手意識を持っている学生でも、クリエイティブな作業では作業に積極的に参加しているようすがあった。
・授業で扱ったテキストを翻案し、映像作品を制作する作業を複数回取り入れた（これは前期から継続している取り組みで、前期中に絵コンテ、カット割、カメラ操作、アフレコ、編集、などの基礎について学んでいる）。たとえば、授業で扱ったテキストから主人公を選んで CM を作る、といった短い作品だと想像もしやすく積極的に作業に取り組むようだった。普段のディスカッションでは発言しない学生も、カメラ操作や編集作業を楽しんでいるようすがあり、前期に監督をしなかった学生も、後期には挑戦するなど、学生はそれぞれ色々な役割を通して学びを深めているようだった。
・毎回の授業では口頭で全体に対するフィードバックをし、その後試験前に小テスト／リアクションペーパーをすべて返却するようにした。リスポンスペーパーにはコメントがあると学生は安心するようだった。 ・授業では翻訳の基礎についても触れたため、リスポンスペーパーでは、リスポンスを書いてもらうほかに、授業での学びを踏まえてテキストの一部を翻訳してもらう機会を数回設けたが、自分の解釈をどのように翻訳に反映させるかを楽しんで作業している学生が多かった。
難易度がそう高くない課題を毎回出す。
レジュメは学生の書き込みを促すよう、敢えて紙で配付した。 授業前に授業内容に関連するアンケートを行い、クラスで結果を共有することで、授業の導入とした。
研究発表用のレジュメの作り方、期末レポートの作成方法について、具体的なサンプルを配布した。受講生それぞれの現時点の力に合わせ、そこに示された型どおりでも、応用しても作成できるようにした。授業アンケートではレポート作成技術を修得できたことに満足度が高かった。
お題を出して考えさせること。
授業中に話題が一段落したところで、周りの学生同士で確認し合わせる。その日の授業内容の重要な部分をリアクションペーパーに文章でまとめさせること。
学部生も履修可能としており、今年度は 1 名の学部生と 3 名の大学院生が履修した。学部生にとっては大学院の授業の雰囲気味わえ、学部生と大学院生双方共、授業でのディスカッションを経て刺激を受けた様子であったため、引き続き学部生も履修可能としていきたい。
日常的に学外の研究会などへの参加を促すこと

② 学生の積極的な取り組みを促すために効果的と思われる授業方法や工夫について
授業内容は歴史ですが、常に現代社会との繋がりを意識させることでしょうか。
資料として映画の原作の一部を読んでもらい、その後それに対応する映画の場面を鑑賞し解説をつけたので、単に映像を見るよりも理解が深まったと考えられる。講義の際に時間的余裕があれば、教員がマイクを持って教室全体を周り、質問や意見を求めるようにしたが、多くの受講生が驚くほど積極的に発言し、自分の考えや疑問に思ったことを述べていて感心した。
200 名を超える大人数授業ではあったが、授業内の質問への回答を Google フォーム（個人情報を集めない設定で）で提出させ、リアルタイムでスクリーンに投影・共有する方法をとったところ、思った以上に回答が集まった。
ペアを組んでもらい、学生間で話し合いながら課題に取り組んでもらう。基本的に教員も巡回して質問等を受け付けるが、学生同士で話し合うことも理解を促進し、疑問を明確にする上で重要と思われる。
試験は筆記形式で、持ち込み不可、とすることで、日ごろの授業を理解していなければ成績に直結するという意識を喚起した。また、レポート課題も出したが、生成 AI の文章を使用することは禁止し、試験の論述と比べて文章に乖離が大きい場合には口述試験を課すことを明示した。
毎週、卒論の一部を書かせ、課題として提出させるようにした。課題提出状況を 1 人 1 人、全員の前で確認するようにし、自分の進捗状況を相互チェックできるようにした。忙しくて書けない場合は、週末までに提出するようにと、1 週間またずに提出させるようにした。
本授業では、インタビューやミニ・フィールドワークを行ったが、双方向の授業が学生には効果的であったように思われる。
少人数でグループディスカッションを取り入れたことによって、他者の意見に触れ、課題の内容について内省し、掘り下げることができた学生が多かったように思われた。
オンラインで実施したが、学生にはとても好評だった。
受講生が多いこともあり、難しい面もあるが、リアクションペーパーを活用し学生とのコミュニケーションを深める。可能であれば、リアルタイムでのチャットの活用なども検討したい。
プレゼンテーションや反転授業
学生が本心から興味を持てる領域での研究を選ばせることが、成長を促すと思う。
真面目でやる気のある学生と、そうではない学生を同じ教室で指導することが大変困難になってきたと思います。前者の学生の学習意欲を注がないための工夫を考えなければならないと思います。
学生自身の興味や関心に基づいて、自主的に取り組む機会や工夫をすることが、効果的だと考えています。
広く行われている方法ではあるが、リアクションペーパーに書かれたコメントのいくつかを次回授業時に紹介することで、学生が授業に参加している感覚を持つことができ、モチベーション向上につながるようである。
詳細だが飽きさせない文法解説
資料の一覧性の向上。学生が質問しやすい環境づくり。リアクションペーパーの工夫。

② 学生の積極的な取り組みを促すために効果的と思われる授業方法や工夫について
視聴覚教材の工夫。質問しやすい環境づくり。リアクションペーパーを手書きで記入する時間の確保。
質問をしやすい環境をつくること
主題の選択について、学生としては身近に感じにくいものであったことは反省材料であり、授業時間内の積極的な発言が少なかった点については改善したい。
哲学科の演習は2～4年生、場合によっては大学院生も参加している。先輩の取り組み方を学ぶことにより、下級生が演習への参加の仕方を心得ていくことができるようになっていいると考えている。
学生同士が対話をする機会を設けることは、短時間であっても、授業への積極的な参加を促し、それぞれの理解を深める上で有効である。
教科の特性もあるが、文字を書く活動はすべて手書きで行った。
一方通行の講義形式ではなく、グループワークや具体的な活動などをとりいれることで自らの体験、経験値を想起したり、新たな発見をし、その中思考力を伸ばす。
ディスカッションベースの授業は、学生の「積極的な参加」が保障され、功を奏していると考える。
課題やグループワークなど何をして、教員からのフィードバックを必ず返すこと。提出されたレポートや、報告については必ずコメントをつけて返却してきた。そうすることで、学生も、教員が丁寧にみて返答をしてくれることを期待して、まじめに課題に取り組むようになっていいると思う。
知識構成型ジグソー法によるグループワーク、講義、グループ単位での調査活動、ウォームアップ＆振り返りの個人課題などの組み合わせで、14回の学習の流れを切らないようにすること。加えて、今年度は編入生を含むメンバーの多様性の幅が大きかったため、多様性を理解深化に生かせるよう、グループの編成や、全体交流時のフィードバック等を工夫した。
実習で経験した内容を学生にそれぞれまとめてもらい、プレゼンテーションを行うことで、事例における共通点や違いを学生がそれぞれ確認し、学びを深める形式を採用した結果、自分が実習を行った種別の施設とは違う施設の子どもへの対応に関しても、深く考える取り組みができた。また同じ種別の施設においても、施設の理念の違いや実習で出会う子どもの年齢や入所背景の違いによっても対応する内容が違うことに気づき、さらに知りたいと積極的に学ぶ学生の姿がみられた。
授業内での簡単な実験、ビデオ視聴、毎回のリアクション課題とそれに対するフィードバックなどが効果的と思われる。
1回の授業（3人が文献紹介）時に、全員がコメントをするよう促し、発表者にフィードバックすることで、卒論への取り組みの動機づけを行う。
授業は教員が一方的に進めていくものではなく、学生と共に作り上げていくものであることを伝え、興味を持って積極的に授業に参加してもらえるよう促すなど。
双方向的な授業をなるべく心がけることが重要と思われる。Slido（ https://www.slido.com/ ）は匿名の形でリアルタイムに受講生の意見やコメントを受け付けられるので、この双方向的な授業を簡便に行うことができよいと思う。

② 学生の積極的な取り組みを促すために効果的と思われる授業方法や工夫について

映像資料を多く用いて、リアクション・ペーパーで必ずその内容の振り返りを求める。翌週の授業の最初に一部を紹介する。

最初にクイズ形式で周産期の問いについて回答してもらい、最後に再度アンケートを行う形にしました。興味を引き付けてから、講義をしたので、みな熱心に聞いてくれたように思います。

グループワークやディスカッション、発表の頻度を増やす、グループワーク中に質問をする、問題解決型学習、探究学習など

グループワーク、ディスカッション等、学生同士での学び合いの時間を定期的にもつことで、それぞれに気づきや学びを得ているようだった。

③ 学科や大学全体として取り組むべきことについて
本学の学生はごく一部を除いて STEM 教育をきちんと受けていないので、プログラミングの授業は非常に大変になるが、だからこそやる意義があり、実際来る学生も他の授業とは違うその意義をはっきり自覚できるようになる。本学の将来にむけて参考になれば幸いである。
100 人以上入る大教室の整備
学生の AI 使用が問題としてあがっているが、教員が AI に関する知識や経験が不足していると対応ができない。教員も教育研究活動において効果的に AI を使うことも必要であるため、研修会などが企画されるとありがたい。
AI の使用について
知識構成型ジグソー法については、2023 年度に FD 研修が行われて非常に参考になった。学生の主体性を育む授業方法についての研究や、教員同士が情報交換をする機会をもっとあってもよいかもしれない。
・AI の使用について注意が必要な一方（ライティング課題は宿題ではなく授業内に取り組みせる、ディスカッションやプレゼンテーションなど書くよりも本人の言葉で表現させる機会を多く設ける、など）、とくに新入生の必修授業では、個々の学生に寄り添った対応も重要と感じている。たとえば、プレゼンテーション＋質疑応答は多くの受講生の自主性と積極性を引き出すことに効果的で、間違えても自分で考えた言葉を発しようとするようすがあったが、他の学生の前で発言すること自体に抵抗がある学生は、普段とても真面目に取り組んでいてもプレゼン当日に欠席してしまうなど、AI 対策として考えたことが必ずしも全員にいい効果を生むとは限らず、柔軟な対応が大切だと痛感している。
・文学＝本だと考える学生が多い。現代において文学作品を読み／学びつづけることの意味について、学科から多様な方法で発信したい。
特にありません。
大学全体として生成 AI を教育の中にどのように位置づけるか、なお考えなければいけない。 生成 AI に頼ると学生の能力が伸びないのは勿論だが、禁止するだけでよいのか。 生成 AI を使いこなす力を養わねばならないし、学生をそのように動機づけすべきだと思う。
特になし
特になし。
古代史の専任教員を加えること
教室として使用した 1 号館の 400 番教室は縦に長く、人数が多いと後ろの席の学生たちにとってはスクリーンが遠く、映画やマイクの音声も聞こえにくくなる。前方の席を希望する学生には教室の前半分に座ってもらうよう配慮したが、人数が多いと後方に座る学生も出てしまうので、受講者数を適切なレベルに留めることが重要だと感じた。 400 番教室の機材は、前半分の席のみを使って授業を行う場合には問題ないが、後方の席に座らざるをえない学生のために、補助スピーカーや補助ディスプレイがあるとよい。

③ 学科や大学全体として取り組むべきことについて
なるべく多くの科目で、レポートの書き方や生成 A I の使い方など、アカデミックスキルに触れるべきである。基礎課程演習や A I ・データサイエンス基礎などで学んでいても、知識は使わなければ身につかない。特に 1 年次生が多く履修する講義科目では、こうした意識を持っておくべきである。
基本的な PC スキルを最低でも 3 年時までには身に着けておくように学生に指導する必要がある。PC スキルを身に着けることは授業の目的としておらず、余計な説明で時間を取られることがしばしばある。
小テストに授業を聞いていなければ解答できないような設問を入れたが、授業で話していない内容で、かつ、一字一句同じ解答が続出したことから、おそらく生成 AI を使ったか、wikipedia などからコピーしたものと思われる。内容的に間違いではないため判断に迷ったが、（授業中に聞いていなくても）課題として提示されて調べたことで知識を得たと見なすことにした。生成 AI の使い方や、課題の判定について、よいアイデアがあれば共有してほしい。
卒論の重要度が学科によって異なると聞いた事があるが、卒論指導の過程でメンターとの関係はさらに深まり、大学での学びを実感する大切な機会である。卒論の取り組み方を全学で（ある程度）揃え、重要度を引き上げることで、学生と教員、卒業生と大学の繋がりを強固なものにできると良いと思う。
生成 AI の利用がレポート作成において目立ち、公平な成績評価が一層難しくなっていると感じた。
オンライン形式の授業を増やしてもよいかもしれない。要検討。
この授業に関しては特に無い
もっと座席変更のできる教室が増えると、グループディスカッションなどしやすいので、増やしてほしい。
特になし
①学年と学生のレベルを考慮した授業が必要だと思います。②少なくとも学生が、コスパやタイパを独自解釈し、何回までであれば授業を休んでも大丈夫といった誤解をしていると思います。入学の時点で学生と保証人に単位取得に必要な学修についてしっかりと説明するべきだと思います。
自己探求として、自らの関心やビジョンを検討するような機会を持つことで、主体性や自分軸を作っていくことに寄与できるのではないかと思います。
資料の配布や授業に関する連絡の方法が、担当者によって異なるため、他の授業において採用された方法を念頭に置いたと思われる質問が複数回あった。授業ごとに一定の違いがあるので、担当者からの指示を注意深く確認する必要があることを大学からも学生に伝えておく。
まだ設備が整っていない教室がある（例：1 号館 402 教室など）。
各教室の環境を整備するとともに、環境の整った教室を増設や改築によって増やすなど、教育環境の整備を行う。
特になし
特になし。
特になし。

③ 学科や大学全体として取り組むべきことについて

アンケートの自由記述に、履修者数が多く教室の座席数に見合っていないとの指摘があったが、教室定員内の受講者数であった。一方で、教室の試験定員に対しては履修者数が超過している状況であり、教室定員と、学生が感じる適正な受講者数との間にズレが生じているように思われる。PC の持ち込み等、学習環境の変化に合わせた、教室定員の見直しが将来的には必要かもしれない。

特になし。

①で述べたコメント提出は評価の対象になっていることを示してあるが、まったく提出しない学生がある。自立した成人の学生たちであるから、どのような参加の仕方をして履修者の自由であると考えて理由を問いたすことはしなかったが、学生にその自覚があるのか、不安に思うところもある。高校までとは異なる教育の仕方・受け方であることを大学全体として明確にすべきだと感じている。

本授業は履修者数が過多の状況であった。1 年次生の履修可能な科目が偏らないよう、時間割編成を全体として見直すことが望まれる。

椅子や机も含めた教室内設備（環境）の更新。

教室環境を万全にする。本授業では 41 番教室を主に使用していたので Q3 には「問題がない」にチェックをしたが、年間授業を行うにあたっての意見。

学生のよりよい学びにおいて学習環境は最重要点であるが、2 号館の 4 階、特に 42, 43 番教室においてはプロジェクターなどは他教室のように大学側からのセッティングではないうえに、窓側（南側）が明るすぎて画像が見づらいので、ブラインドのみならず暗幕のようなものをしっかりと設置してほしい。あらゆる学生が使用する教室ではないので後手にされているのかもしれないが、学びの質は均等にしてもらいたいというのが本音

資質・能力のうちの「知識・技能」の体系化だけでなく、「思考・判断・表現」「学びに向かう力」の体系化も進めていけるとよいと思われる。

出席が足りない学生や授業態度が悪い学生に対して、下駄をはかせて何とか卒業させようとする姿勢はやめるべきだと思う。大学の学びは自ら選択したものであるのだから、その学びをきちんとやらない学生に対して甘い姿勢をとる必要はないと思う。

これまでの聖心は、社会で活躍する卒業生に支えられてきたが、これから下駄をはかせて無理やり卒業させてもらった学生が社会に出て「聖心出身」を名乗るようになったら衰退してしまうと思う。

各学年の到達目標の「具体像」の明確化と共有。前職では教員による授業相互参観を FD として実施しており、到達目標の具体化や、目標達成のための学生の育ちの過程について、多様な可能性をイメージすることに資していたような気もしています。

3 号館 333 教室だったので、特に大きな問題はなかったが、Wi-Fi の環境が悪い時があるので、その点においては強化してほしいと思うことがあった。映像の画像を写したくても、古い機器なので上手く映らない時があり、設備を新しいものに変更してほしいと思う。

③ 学科や大学全体として取り組むべきことについて

大きな教室の増設を希望する。授業内でテストを実施する場合、不正行為防止のために隣の席と十分にスペースをあける必要がある。受講生の多い授業（150 名前後）で、スペースを確保し試験できる教室が、現状、400 番教室くらいしかない。そのため、今年度は私見の際に教室を 2 つに分けざるを得ず、別の教員に試験監督を手伝ってもらわねばならなくなった。150 名規模の受講生が難なく試験を受けられるような大教室の増設に取り組んでいただきたい。

話をする形の講義だけではなく、グループワークや課題を途中に挟む、学生さんに話をしてもらうなどが効果的であると思いました。

大学の方針に即した授業内容の実施

④ その他、アンケート結果（結果について・学生のコメントなど）や授業評価全体についての意見・提言など
話しやすい環境を作ってくれたとの意見があり、良かったと思う。特にゼミのような少人数クラスは互いの学びを促進する環境づくりが大切だと思っている。参加者によってなかなか難しい年もあるので、こちらも良い環境づくりとリーダーシップを育てる努力をしたい。
特になし。
回収率が低い。
この Google フォームの Q4(①から④) が、報告している授業に関するコメントを求められているのか、他の授業も含めた全体に対するコメントを求められているのか、ややわかりにくい。
授業評価のフォーム提出は集計がしやすくなるが、セクションに分かれていると全体像を一度に見ることができないため、全ての質問がみられる形の方が良い。
②に書いたように、双方向性を高めることで、一定程度は学生の積極的な取り組みを促すことはできた。しかし予習不十分、事前課題未提出といった状態で授業に出席する学生は皆無にすることは難しかった。学生評価では、「グループのメンバーによっては、円滑に作業が進められず、議論を深めるのが難しかった」という意見がごく少数が見受けられた。 学生それぞれが「今、自分は何を学ぶためにここにいるのか」を考え続けることができるような、個別の授業にとどまらない大学全体の環境作りが大切かもしれない。
・アンケートでは、他の受講生の私語が気になったというコメントがみられた。授業と関係のない話をしている学生がみとめられた場合には、教室を回っている際にやんわりと声をかけたり、積極的にその学生たちを当てて教科書の問題に答えてもらうなどして、授業への集中を促していたが、はっきりとした注意も必要と感じた。
・授業時間内にアンケート記入の時間を用意できなかったため、回答率が低かった。
・授業時間内に回答時間を設けることができなかったため、回答率が低かった。 ・毎回ハンドアウトを配布した（データ版は一週間前に Google Classroom に掲示し予習できるようにした）が、ハンドアウトが授業内容の理解に役立ったという学生が多いようだった。
・くずし字がだんだん読めるようになって嬉しかった。 ・授業の雰囲気明るくて楽しかった。 ・レジュメを丁寧に確認してもらえたので、発表がきちんとできた。
紙媒体でアンケートを行っていた時の方が回収率が高かったように思います。 匿名性を守りつつも、回答の有無が分かるような工夫がなにかあればよいのですが。
例文をたくさん出すことをこう評価しているコメントが多かった。授業後に課題を出してほしいというものもあり、検討したい。
全学共通のアンケートの他に、最後の授業で全体を振り返る感想を提出させている。この2つを授業改善に役立てているので、全学共通のアンケートは現状のままでよい。項目数を増やして学生に負担をかけ、結果的に回答率を下げるようなことはしない方がよい。

④ その他、アンケート結果（結果について・学生のコメントなど）や授業評価全体についての意見・提言など
特になし
アンケートには 40 名が回答し、「総合的にみてこの授業に満足した」の項目で 5（よくあてはまる）が 60%、4（ある程度あてはまる）が 30%となっていた。「自らの知識や能力が向上した」の項目でも、5 が 50%、4 が 40%となっており、全体として満足度は高いと考えられる。「授業の教材が学習の役に立ったか」という項目でも、5 が 53%、4 が 35%で、自由記述欄にも映画が昔の時代を理解するのに役立った、という意見が目立っており、映像資料の活用が評価された。座席についての配慮、期末試験の形式についても評価する意見があった。 その反面自由記述欄では、人数が多かったので人数制限をするか授業を 2 回に分けてほしい、後ろの方では聞こえづらい時があったのでマイクの音量をあげてほしい、といった意見も出ており、適正な人数で授業を行うことの重要性を再確認することができた。
毎回リアクションペーパーを提出させたが、授業に始めから出席している学生が、授業の途中から出席する学生に対して、不公平感を表す声を聞くことがあった。大人数授業であるために遅刻者への対応は困難であったが、教員はリアクションペーパーの内容をもとに適切な評価に努めた。他の授業でも同様のことがあった。自分の学びに集中するよりも、他者との比較で公平・不公平を感じる意識は、自身の成長を妨げるものにならないかと懸念している。
授業評価アンケートの回収数が少なすぎてアンケート結果については特に何もありません。
必修科目や資格関係の授業は、学生の関心と必ずしも一致しないため、満足度は低い傾向にある。
調査のコメントはなかったので、改善点など明確に分からない。ただ、授業期間の途中で教室を BE * hive から人関ゼミ室へ変更した。後者は大変に狭く、教員はやりにくいのだが、学生は小さい場所で集中し、緊張せずに話ができるようになったそうである。 これまで、ゼミ開催場所と学生の発言しやすさなど考えた事も無かったが、教室環境については学生に改めて聞くべきだったと思った。
なし
私語がなかったことなど、学習環境を整えることを重視した点は評価されていた。リアクションペーパーの提出を出席の指標として成績評価に反映させたが、出席状況の厳格な把握を求める声もあった。
特になし
評価をもらった学生が少なかったので、何らかの方法で、もっと多くの学生に授業評価に参加してもらうようにしたいと思います。
回答率を高めるため、授業担当者から個別に連絡するだけでなく、全学的に学生に回答を呼びかけることも必要だと思われる。
「毎週、この授業を楽しみにしていた」、「悩みを丁寧に聞いてくれた」とのコメントがあった。
「キリスト教について全く知らなかったのに興味を持てた」、「社会福祉について学ぶことができたが、改善点としては、キリスト教に関する知識は身につけている前提だったので、もう少し補足が必要だ」「映像をもちいたことで、理解しやすかった」、「資料が配布されたことがよかった」などが寄せられた。

④ その他、アンケート結果（結果について・学生のコメントなど）や授業評価全体についての意見・提言など
「毎回匿名でリアクションペーパーを共有してくださったことで知見が広がりました」、「哲学概論として、全体像を掴めたのは、プリントのおかげです。一回の授業に対してひとりの哲学者を極めるという形式が、復習のしやすさを生みだしていた気がします」、「内容理解が難しかったが繰り返し教科書などと照らし合わせながら勉強することで理解できた」、「感想を伝えられる機会が授業ごとにあり、自分の考えを言葉にすることができたおかげで自分の中での整理ができました。さらにそこから先生が話を展開してくださったので、考えが深まったり、自分の捉え方の違いに気づけたりすることができました」。
アンケートでは否定的評価は見られなかったため、今後も現在の方針を維持して授業の改善を続ける。
アンケート結果は概ね良好であるが、授業のための予習・復習時間が週 30 分以下との回答が 3 割にのぼった。レポートの執筆や発表原稿・発表資料の作成という点から考えると十分な準備時間とは言い難い。予習・復習の意義や取り組み方をより分かり易く伝えることができるよう改善したい。
授業の満足度は「よくあてはまる」が 70%であったが、一方で、予習・復習に割いた時間については週 30 分以下が 52%、週 0 分が 19%にのぼった。教科書や資料を読んだり、課題にとりくむことだけでなく、日々の生活の中で学習したことと結び付けて物考えることもまた、学習内容を自らのものとして、学術的観点から社会問題を捉え直す営みであり、授業時間外の学修であることを自覚してもらうよう、学術的知見を生活の中で活かすこととはどのようなことかについて、学生に伝わるような工夫をしたい。
授業評価アンケートの回答率が低かったため、正確な状況の把握は困難であるが、「授業前から授業内容に興味・関心があった」という問いに対して「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した学生の割合が 33%であったのに対し、「総合的にみて、この授業に満足した」と回答した学生の割合は「よくあてはまる」が 67%、「ある程度あてはまる」が 33%であった。教材と授業の進度に対する回答と概ね連動しており、教材の一層の改良を試みる。
アンケート結果は概ね肯定的であったが、予習・復習時間が週 30 分以下が 40%、週 0 分が 15%にのぼった。一方で、（アンケートの自由記述には記載がないが）参考文献とした挙げた文献を自ら手に取ったとの報告も見られ、「授業を基に考察を深めること」と「予習・復習」という語の間にズレが生じているように思われる。この点を改善するため、自ら主体的に学ぶとはいかなることかを積極的に伝えるよう工夫したい。
アンケートについては回答件数が 3 件にとどまった。授業改善のため、回収率の向上に努めたい。
今回、授業評価アンケートの提出者が受講者数を超えていた。 同じ受講者が生年月日などを変えて、敢えて複数提出したということであろう。 そのなかに授業に対するネガティブな意見（類似した内容）を述べた自由記述が 4 件あった。このようなことはこれまでなかったことなので大変驚いた。意見自体に対しては、誤解だと抗弁したい気持ちや、できれば口頭で言ってほしかったという思いがある一方で、それを言えないような雰囲気をつくっていたのだとすればそれは改めたいと考えている。 成績評価については、当初シラバスに記した割合で評価しており、F 判定であった学生はいずれも事前コメントをほぼ提出していないためにその評価となったものである。
とくになし

④ その他、アンケート結果（結果について・学生のコメントなど）や授業評価全体についての意見・提言など
授業評価を「計画」「実践」をふまえたものとして実施するようなしかけがあるとさらに良いかなと思います。
紙媒体ではなく、データで結果を共有いただくと活用しやすいと思います。ご検討いただければ幸いです。
授業アンケート結果は、オンラインで確認できるようになっていると、各年度の比較等もできてありがたいです。
学生のコメント：説明が丁寧で分かりやすかった。実習の事例研究をグループで深めることで、様々な学びを得ることができた。また、グループワークが多く、個人的にとっても学びやすい環境だった。
回収率は極めて低かった
ゼミでの発表&ディスカッションを通して、学生がお互いを知る機会となり、ゼミの凝集性が高まったと思われる。
授業評価アンケートの回答率が低かったため、次年度以降工夫をしていく必要を感じました
「全 14 回の授業を通して授業を受ける前までは全然周産期の知識がなかったのですが、14 回の授業を通して周産期医療における心理臨床について深く学ぶことが出来たと感じています。特に妊娠・出産に関する知識は当事者だけでなく周りの人々も知識を得ておく必要があると思いました。そうすることで当事者の方が困ったことがあった時に周りの人々がサポートを行ったり、会社を通して専門医・専門機関へとつなげることが出来ると思いました。」「妊娠や出産に関することや将来の健康について、大学生のうちに学ぶことができて本当に良かったと思っている。プレコンセプションケアなどについては全員が学んだほうが良い内容だと思うため、例えば本学の 1 年次生全員が受講するジェネラルレクチャーの 1 回に含まれるとよいのではないかと考えた。」 などの意見が寄せられました。

第3章 学科・専攻による授業報告書

本学では第2章で示したように、学生からの授業評価に基づき、授業を担当した専任教員が「授業報告書」を作成することで授業レベルでの点検評価を行う。さらに、「授業報告書」は担当教員が所属する学科・専攻単位でまとめられ、「学科・専攻による授業報告書」が作成され、学科・専攻レベルでの点検評価を実施している。

報告書は下記のすべての学科・専攻において共通のフォーマットを使用しており、以下の点について報告が行われている。

1. 授業の目標達成度や学生の取り組みに関する学科・専攻としての所見
2. 目的達成上効果的だった方法や工夫
3. 教室設備の問題
4. 授業内容、運用カリキュラム編成など意見
 - 1) 教員個人の取り組み：
 - 2) 学生の積極的取り組みを促すための効果的方法、工夫
 - 3) 学科や大学全体として取り組むべきことについて
 - 4) その他
5. 授業評価に関する感想、要望

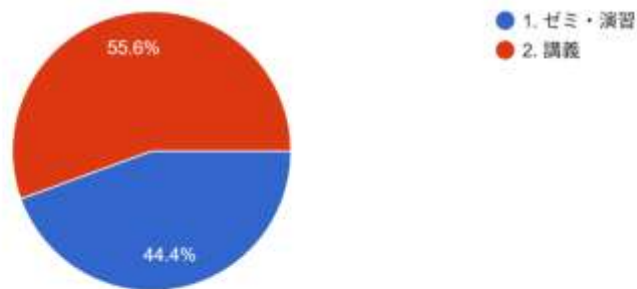
以下、各学科から提出された報告書を掲載する。尚、これらの報告書は将来構想評価委員会にも各学科から報告があり、今後の教育活動に関する課題や改善方策が検討される。これにより、授業レベル、学科・専攻レベル・全学レベルでの点検評価活動を行い、本学の教育事業に関するPDCAサイクルを回している。

2025 年度 学科・専攻コースの授業報告

学科・専攻コース名 英語文化コミュニケーション

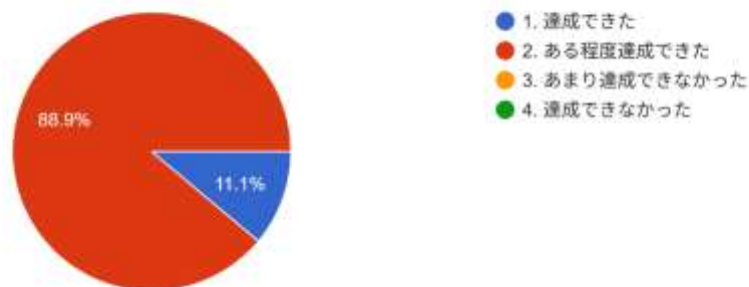
以下、本年度実施された本学科専任教員の授業報告書の取りまとめ結果に、項目ごとの全体的所見を追加したものを学科専攻の授業報告として提出いたします。

授業形式
9 件の回答



【全体的所見】対象クラスは種類、学年、規模、形式とも偏りなく選ばれていた。

Q1. 本授業では目標をどの程度達成できたと思いますか。
9 件の回答



【全体的所見】すべての回答で目標は一定水準を達成できたとしている。

Q2.

目標を達成する上で効果的だった方法や工夫はどのようなものですか。

(複数回答可)

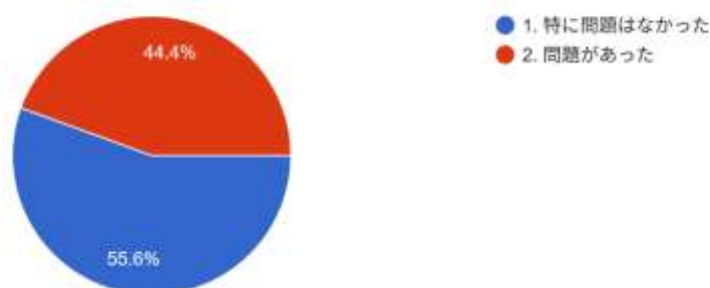
9件の回答



【全体的所見】例年通り、教材・資料の提示方法、課題の出し方、学生の参画の仕方に工夫がなされている。「私語への注意、対応」に関する効果的方法・工夫を挙げた回答がゼロだったということは、問題がなかったということの意味するものではない(Q4への回答参照)。

Q3. 教室設備 (空調・ICT機器・マイク等) や通信環境に問題がありましたか。

9件の回答



- 学内の wifi 環境自体の問題ではありませんが、オンラインのゲーム制作プラットフォームに接続する際のセキュリティ強化のため、同一 IP アドレスから一定数同時間

帯に接続すると難しい Captcha 認証が課されるという事態になったので、自前のポケット wifi を用意して問題を回避した。(この件は情報化推進課と情報共有済み)

- 341 教室 教卓パソコンの HDMI 接続コードが短いため抜けやすく、プロジェクター投影が安定しない。
- 342 教室 問題というわけではないのかもしれませんが、受講人数(28名)に対してかなり教室が広く、席を決めて前のほうに座るよう促していても後方に座りたい学生が多かったように思います。
- 203 番教室 一部のカーテンが閉まらない

【全体的所見】例年通り、設備・環境の問題点については、その都度関係部局と連携して遅滞なく改善する必要がある。

Q4. 授業内容、運用、カリキュラム編成などについて、特にご意見、ご提言がありましたら自由に記述してください。

① 教員個人が取り組むべきこと、効果的な授業方法、運営の仕方について(ご自身のことでなくても結構です) 9 件の回答

- ・ グループワークの分け方に注意した。演習のため前期からグループワークを積極的に取り入れていたが、授業外での友人関係に影響されてグループワークで思ったように作業できないという受講生がいたため、グループが固定されず色々な人と作業する機会を持てるよう心がけた。同時に、上記のような学生には授業外で個別相談の時間を設けた。
- ・ 英語テキストの音読を積極的に取り入れた。集中力が途切れて私語がみられたり、テキストを正確に読んでいない場合もあったため、全員に音読をさせるようにしたところ、英語を集中して読む力の向上につながった。
- ・ 英語で文学作品を読んだ経験がない受講生が多い状況で、どのように学生の関心を喚起するかという工夫を重視する必要を年々強く感じている。本授業で扱ったのは、AI ロボットと 10 代の少女の友情を描いた作品であったために受講生は興味をもちやすかったと思うが、いつの時代に書かれたどのような作品であっても、学生の興味関心を刺激できる作品へのアプローチを考えたい。
- ・ 特講の「英語による講義」を続けてきているが、ここ数年、学生達の理解度にかなりの差が開いている。授業内での声かけやスライドの工夫をしているが、現在の中間・期末試験の評価形式を変更するなどの検討の必要性を感じている。
- ・ プログラミングは内容的に難度が高いので、説明を小分けにして頻繁に学生の達成状況を確認しながら進める必要がある。
- ・ 学外でのフィールドワークは理解度の促進やクラスの雰囲気向上に効果があり学生にも好評だったが、実施のための事前準備や事後の振り返り等の時間を計画した以上に取り必要があった。学生の時間外学習(予習・復習)や準備度合の差が激し

く、それを頼りにした授業展開が困難になることもあるため、自発的な学びや気づきを阻害しない程度の導きと授業参加へのモチベーションを維持向上させる方法を考えたい。

- ・今年度はグループ作業を好む受講生が比較的多く、教室が広いことで後方や離れたところに座ろうとする学生もみられたため、グループワークを積極的に取り入れた。ただし、再履修者や支援パスポート所持者など、グループでの活動に不安を感じる学生がいることも考慮し、学生のようにすにに応じて個人作業も選択できるようにした。・前方に座っている学生と後方に座っている学生、両方が授業に参加しているという意識を持ち、質問があればすぐに教員に聞くことができるように、授業では毎回教室内を複数回まわって全員に声をかけるようにした。アンケートでは「取り残されずについていくことができました」「普段の講義では分からないところが見つかった時や英語の表現が適切かどうか迷ったときに先生に気軽に尋ねることができて、とてもありがたかったです」というコメントがあり、授業でわからないことがある際に教員に質問できる安心感を求めている学生が多いことをあらためて理解した。
- ・グループディスカッションとプレゼンテーションはあまり嫌がらず準備をしてくるようだ。
- ・大教室の後ろの方で私語をする学生をなくすことが難しい。あまりしなくなかったことだが、座席の指定等も考えなければいけない。遅刻、多数の欠席、課題の不提出が近年目立つようになり、一教員だけではない対策が必要である。
- ・毎回の授業は導入となる視聴覚資料（文学作品の翻案としての映画、歌、CMなど）を数分間見せる／聞かせることからはじめ、英語に抵抗がある学生にも、文学作品に親しみを持ってもらえるよう心がけた。時間は2-3分、長くても5分程度のごく短いほうが、集中でき効果的なようである。・毎回授業終わりに一問一答の小テストをおこない、授業内容を振り返ることができるようにした。期末試験のための復習に役立てる学生が多いようだった。・授業内で使用したスライドは、授業後に Google Classroom に掲示し復習に役立てられるようにしたところ、授業中の学生の集中力も向上したように思われる（昨年度の授業では、授業内で見せたスライドをそのまま Google Classroom に掲示することはせず、希望者のみ英文研究室で閲覧できるようにしていたが、そのためか授業中にノートをとるよりもスライドの写真をスマホで撮ろうとする学生が多くなってしまっていた。今年度はあとで Classroom で見返せる安心感からか、授業中にノートをとっているようすがあった）。

② 学生の積極的な取り組みを促すために効果的だと思われる授業方法や工夫について9件の回答

- ・授業で扱ったテキストを翻案し、映像作品を制作する作業を複数回取り入れた（これは前期から継続している取り組みで、前期中に絵コンテ、カット割、カメラ操作、アフレコ、編集、などの基礎について学んでいる）。たとえば、授業で扱った

テキストから主人公を選んでCMを作る、といった短い作品だと想像もしやすく積極的に作業に取り組むようだった。普段のディスカッションでは発言しない学生も、カメラ操作や編集作業を楽しんでいるようすがあり、前期に監督をしなかった学生も、後期には挑戦するなど、学生はそれぞれ色々な役割を通して学びを深めているようだった。

- (A) 知識構成型ジグソー法の応用 初めての試みとして、知識構成型ジグソー法を応用した授業とした。4回の授業を一つのサイクルとして、12週の授業で、①-⑥を3サイクル繰り返した。① テーマ別にグループ分け。② 毎週、各自で事前課題の範囲を読み進める。気になった箇所についての考察、疑問点を事前に Google ドキュメントに提出。③ 授業前に、②をグループ別にまとめなおした PDF ファイルを Classroom で共有。④ ③に基づいて、グループディスカッション。各グループは、自分たちのテーマについて考察を深める。⑤ 3回の授業を通して、各グループは自分たちのテーマについてスライドを完成、発表準備をする。⑥ グループを分け直し、④のスライドを新グループで発表、説明する。 学生からは、以下のような感想が寄せられた。 ・「[新しい]班に行ったときに自分の言葉で説明できて理解が深まりました。」 ・「全く内容を知らない[新しいグループの]人に話すとなると、今まで以上にしっかり自分で内容を理解しておかなければならないという認識が生まれ、より精一杯取り組むことができました。」 「自分だけの知識だけではなく、力を合わせることで新たな知識が表れていくことがよかった。」 ・「別々の視点から同じものを見ることが出来たので知見が深まったと思いました！」 (B) 学生全員の事前課題回答へのフィードバック 毎週、Classroom で事前課題回答を共有し、授業初めに紹介・解説した。共有の際、各学生の考察の中心部分は太字に、優れた指摘、示唆に富む意見はピンクの字にすることで、他の学生がポイントを把握しやすいように工夫した。学生からは以下のような感想があった。 ・「毎回の課題で深く考え、次の授業でフィードバックを受ける構成がとても良かったです。ピンク色の文字になって紹介された時は、いつも内心とても喜んでいました。」 ・「毎週英語で読むのは大変でしたが、自分でよく考えて感想を書いたり考察をすることが楽しかったです。」
- 講義授業(70名)ではあったが、ペアワークや練習問題を積極的に取り入れたことが効果的であった。学生からも「授業内で手を動かして考えられる問題が用意されていたこと」、「(トピックが変わる時に)確認問題を行い、ペアワークを通して意見交換できたこと安心して授業が受けられた」との感想があった。
- 教員の PC をスクリーンに表示して、作業課題が明確にわかるようにする。
- プレゼンテーション、ディスカッション、データ分析、フィールドワーク、振り返りなど様々な方法でグループワークを行い、お互いの学びや理解度を共有する機会を作ること。この授業ではグループを頻繁に変えたことで、クラスメートを良く知ることができたというコメントもあった。 授業で学んだことをレポートやテストに

よる振り返りだけでなく、ポスターやマップ作りなどの制作の形にしたことで、学んだ内容を新たな視点から考察することができたようである。

- ・ 特定の学生が率先して話すグループディスカッションよりも、グループまたはペアで、授業で学んだことをもとに英語の造語をつくる、英語のガイドブックをつくる、など話し合いながら手を動かす作業のほうがやる気を出す学生が多かった。普段あまり発言しようとしないう学生、眠ってしまう学生、英語に苦手意識を持っている学生でも、クリエイティブな作業では作業に積極的に参加しているようすがあった。
- ・ 毎年構成員によって全く異なるが、2025年度は学生の意見を取り入れグループディスカッションの機会を多く取り入れたのは比較的良かったかもしれない。
- ・ 授業内容に関する課題を毎回 Google Classroom に提出させる。きちんと取り組めば効果がある。
- ・ 毎回の授業では口頭で全体に対するフィードバックをし、その後試験前に小テスト／リアクションペーパーをすべて返却するようにした。リスポンスペーパーにはコメントがあると学生は安心するようだった。・ 授業では翻訳の基礎についても触れたため、リスポンスペーパーでは、リスポンスを書いてもらうほかに、授業での学びを踏まえてテキストの一部を翻訳してもらう機会を数回設けたが、自分の解釈をどのように翻訳に反映させるかを楽しんで作業している学生が多かった。
- ・ ③ 学科や大学全体として取り組むべきことについて 7 件の回答
- ・ 知識構成型ジグソー法については、2023 年度に FD 研修が行われて非常に参考になった。学生の主体性を育む授業方法についての研究や、教員同士が情報交換をする機会をもっとあってもよいかもしれない。
- ・ 学生の AI 使用が問題としてあがっているが、教員が AI に関する知識や経験が不足していると対応ができない。教員も教育研究活動において効果的に AI を使うことも必要であるため、研修会などが企画されるとありがたい。
- ・ 本学の学生はごく一部を除いて STEM 教育をきちんと受けていないので、プログラミングの授業は非常に大変になるが、だからこそやる意義があり、実際来る学生も他の授業とは違うその意義をはっきり自覚できるようになる。本学の将来にむけて参考になれば幸いである。
- ・ AI の使用について
- ・ AI の使用について注意が必要な一方（ライティング課題は宿題ではなく授業内に組みこませる、ディスカッションやプレゼンテーションなど書くよりも本人の言葉で表現させる機会を多く設ける、など）、とくに新入生の必修授業では、個々の学生に寄り添った対応も重要と感じている。たとえば、プレゼンテーション＋質疑応答は多くの受講生の自主性と積極性を引き出すことに効果的で、間違えても自分で考えた言葉を発しようとするようすがあったが、他の学生の前で発言すること自体に抵抗がある学生は、普段とても真面目に取り組んでいてもプレゼン当日に欠席して

しまうなど、AI 対策として考えたことが必ずしも全員によい効果を生むとは限らず、柔軟な対応が大切だと痛感している。

- 100 人以上入る大教室の整備
- 文学＝本だと考える学生が多い。現代において文学作品を読み／学びつづけることの意味について、学科から多様な方法で発信したい。
- ④ その他、アンケート結果（結果について・学生のコメントなど）や授業評価全体についての意見・提言など 9 件の回答
- 授業時間内にアンケート記入の時間を用意することができなかったため、回答率が低かった。
- ②に書いたように、双方向性を高めることで、一定程度は学生の積極的な取り組みを促すことはできた。しかし予習不十分、事前課題未提出といった状態で授業に出席する学生は皆無にすることは難しかった。学生評価では、「グループのメンバーによっては、円滑に作業が進められず、議論を深めるのが難しかった」という意見がごく少数だが見受けられた。 学生それぞれが「今、自分は何を学ぶためにここにいるのか」を考え続けることができるような、個別の授業にとどまらない大学全体の環境作りが大切かもしれない。
- この Google フォームの Q4(①から④) が、報告している授業に関するコメントを求められているのか、他の授業も含めた全体に対するコメントを求められているのか、ややわかりにくい。
- 特になし。
- 授業評価のフォーム提出は集計がしやすくなるが、セクションに分かれていると全体像を一度に見ることができないため、全ての質問がみられる形の方が良い。
- アンケートでは、他の受講生の私語が気になったというコメントがみられた。授業と関係のない話をしている学生がみとめられた場合には、教室内を回っている際にやんわりと声をかけたり、積極的にその学生たちを当てて教科書の問題に答えてもらうなどして、授業への集中を促していたが、はっきりとした注意も必要と感じた。
- 話しやすい環境を作ってくれたとの意見があり、良かったと思う。特にゼミのような少人数クラスは互いの学びを促進する環境づくりが大切だと思っている。参加者によってなかなか難しい年もあるので、こちらも良い環境づくりとリーダーシップを育てる努力をしたい。
- 回収率が低い。
- 授業時間内に回答時間を設けることができなかったため、回答率が低かった。 ・毎回ハンドアウトを配布した（データ版は一週間前に Google Classroom に掲示し予習できるようにした）が、ハンドアウトが授業内容の理解に役立ったという学生が多いようだった。

。

【全体的所見】

例年通り、多様化が進む学生の参加する授業運営について、一人一人に寄り添い、一人も取りこぼさないための様々な苦勞・工夫がなされている。この点については個々の教員の問題にとどめず、学科専攻や大学全体としての取り組みを求める声がある。

FD で知り得た授業方法に効果があったという報告がある。

最近の問題として学生の AI 使用に関する苦勞も見え、大学全体としての取り組みが求められている。

なお、今回授業評価対象にしなかったクラスについて、学生サポートパスポートの内容に施設面での配慮（遮光の必要など）が求められている際、教室設備に不具合があった場合は早急な対応が必要になるため、配慮の依頼文の中に対応部署を明記してほしいとの要望があったので、これも大学全体としての取り組みに加えていただきたい。

2025 年度 学科・専攻コースの授業報告

学科・専攻コース名 日本語日本文学科

1. 授業の目標達成度や学生の取り組みに関する学科・専攻としての所見

- ・すべての授業で目標を「達成できた」または「ある程度達成できた」という評価が示された。授業の目標は達成できたと考えられる。
- ・授業内に課題を出したり、授業後に授業の内容の重要な部分をリアクションペーパーに文章でまとめさせたりすることにより、学生が真剣に授業に取り組むようになってきている。
- ・一方で、昨年同様明らかに準備不足のまま試験に臨む学生や、学修意欲の低い学生も目に付いた。そのような学生をどのように授業に引き込むかは今後の課題である。

2. 目的達成や学生の積極性向上に資する具体的な授業の実践例など

（主体的学習態度を養う取り組み、授業外の学習時間を伸ばす取り組み、ICT 利活用の取り組みなどについて、他の教員にもヒントになるような工夫や方法がありましたらお書きください）

- ・授業前に授業内容に関連するアンケートを行い、クラスで結果を共有することで、授業の導入とした。
- ・学生の書き込みを促すよう、レジュメは敢えて紙で配付した。また重要箇所に空欄を作るなど、学生が授業に積極的に参加するようにした。
- ・授業中に話題が一段落したところで、周りの学生同士で確認し合わせた。
- ・課題は適度に学生が答えられる難易度に設定した。
- ・グループワーク、個人作業を適度に組み合わせた。また適宜グループを組み替えた。
- ・授業中に 5 分程度小休憩を入れた。
- ・授業の内容がマニアックになりすぎないように気をつけた。
- ・その日のキーポイントを文章にまとめさせて、翌日中にリアクションペーパー（Google フォーム）を提出させ、学生が復習しやすいようにした。
- ・授業冒頭に前回のリアクションペーパーに答えながら内容の復習をした。
- ・演習の授業では、最初の発表は教員が事前にチェックし、実際の発表で成功体験を作った。2 回目以降は学生に任せ、質問の時間をもって対応した。これについては、レジュメを丁寧に確認してもらえたので、発表に自信がもてた、きちんとできた、などの感想があった。
- ・特に 1 年次生に対しては、研究発表用のレジュメの作り方、期末レポートの作成方法について、具体的なサンプルを配布した。受講生それぞれの現時点の力に合わせ、そこに示された型どおりでも、応用しても作成できるようにした。授業アンケートではレポート作成技術を修得できたことに満足度が高かった。
- ・新入学生は学修の前提となるツールや技術を持っていない（または個人差が大きい）。たとえば、PC に Word がインストールされていない、Word の使い方を知らない、などだが、それらに対して、教室で実情を見て、柔軟に情報提供をしたり、学生同士で教え合うワークの時間をとったりした。

3. 今後、学科・専攻コースとして取り組むべき課題

- ・ 教学面で問題のある学生の情報を学科内で共有する。
- ・ 学科内 FD 研修を継続的に行う。本学科は教育方法や学生指導について学科会議の中で頻繁に取り上げる体制ができている。
- ・ レポートで生成 AI を利用する学生が増えてきている。大学の方針を確認し、学科でも対応を考える必要がある。

4. 学科・専攻コースの立場として大学に望むこと（意見、提言など）

- ・ 大学全体として生成 AI を教育の中にどのように位置づけるか、なお考えなければいけない。生成 AI に頼ると学生の能力が伸びないのは勿論だが、禁止するだけでよいのか。生成 AI を使いこなす力を養わねばならないし、学生をそのように動機づけすべきである。
- ・ 今年も教室整備について改善を求める意見があった。
213 教室 PowerPoint をプロジェクタで投影したが、カーテンを閉め、教卓の電気を消灯しても見づらいという意見が多数あがり、結局教室の全電気を消して授業を行った。学生からは PowerPoint はよく見えたと好評で、ノートをとるのにも支障はないとのことだったが、手元の資料が見づらく、講義しづらかったため、プロジェクタの鮮明度などを再確認してほしい。

5. 授業評価に関する感想、要望

- ・ 紙媒体でアンケートを行っていた時の方が回収率が高かったように思う。匿名性を守りつつも、回答の有無が分かるような工夫が必要か。
- ・ 全学共通のアンケートの他に、最後の授業で全体を振り返る感想を提出させている。この 2 つを授業改善に役立てているので、全学共通のアンケートは現状のままでよい。項目数を増やして学生に負担をかけ、結果的に回答率を下げるようなことはしない方がよい。

2025 年度 学科・専攻コースの授業報告

学科・専攻コース 史学科

1. 授業の目標達成度や学生の取り組みに関する学科・専攻としての所見

今年度から授業精選の皺寄せか、一部の授業で履修者が異様なほどに多くなった。結果として400番教室や宮代ホールなど、必ずしも講義内容とはマッチしない部屋での授業を余儀なくされたものもあった。それらの授業については目標達成度に多少の影響が出たものと思われる。

2. 目的達成や学生の積極性向上に資する具体的な授業の実践例など

(主体的学習態度を養う取り組み、授業外の学習時間を伸ばす取り組み、ICT 利活用の取り組みなどについて、他の教員にもヒントになるような工夫や方法がありましたらお書きください)

映像作品学外研修による実地踏査を組み込んだ授業については、概ね学生の意欲が高まる傾向にあるので、今後も続けていきたい。

また学習意欲の高い学生については大学院ゼミの履修も許可しているが、学部生の参加によって大学院生の刺激にもなり、良い相乗効果が出ているとのことである。

3. 今後、学科・専攻コースとして取り組むべき課題

「1」の状況を踏まえて、抽選などを通じて履修学生数をコントロールしつつも、反面で多くの授業が1年生でも気軽に履修できるという状況を維持する必要もあろうかと思われ、そのバランスをいかにとっていくかが課題である。

4. 学科・専攻コースの立場として大学に望むこと (意見、提言など)

古代史の専任教員がいない状況だと、十分な学問教育が不可能であり、増員をお願いしたい。

5. 授業評価に関する感想、要望

特になし

2025 年度 学科・専攻コースの授業報告

学科・専攻コース名 人間関係学科

1. 授業の目標達成度や学生の取り組みに関する学科・専攻としての所見

授業の目標達成度は、授業評価を行ったどの授業も「達成した」もしくは「ある程度達成した」であり、授業の目的達成度は概ね達成していると考えられる。

2. 目的達成や学生の積極性向上に資する具体的な授業の実践例など

（主体的学習態度を養う取り組み、授業外の学習時間を伸ばす取り組み、ICT 利活用の取り組みなどについて、他の教員にもヒントになるような工夫や方法がありましたらお書きください）

- ・学生がどれくらい授業内容を理解しているかを把握しながら進めていくことが重要と考え、授業運営に取り組んでいる。そのため、授業内外の課題をかしている、
- ・毎回、知識の復習のための小テストを実施した。資料を見直せば解答できる内容だが、それが知識の理解や定着に役立ったという声が多かった
- ・ペアを組んでもらい、学生間で話し合いながら課題に取り組んでもらう。基本的に教員も巡回して質問等を受け付けるが、学生同士で話し合うことも理解を促進し、疑問を明確にする上で重要と思われる。
- ・試験は筆記形式で、持ち込み不可、とすることで、日ごろの授業を理解していなければ成績に直結するという意識を喚起した。また、レポート課題も出したが、生成 AI の文章を使用することは禁止し、試験の論述と比べて文章に乖離が大きい場合には口述試験を課すことを明示した。
- ・双方向の授業が学生には効果的であった
- ・少人数でグループディスカッションを取り入れたことによって、他者の意見に触れ、課題の内容について内省し、掘り下げることができた学生が多かった

3. 今後、学科・専攻コースとして取り組むべき課題

- ・主体的学習態度を養う取り組み、授業外の学習時間を伸ばす取り組み、ICT 利活用の取り組みを継続していく。

4. 学科・専攻コースの立場として大学に望むこと（意見、提言など）

- ・教室に問題があったことが1件報告されており、教室整備をお願いしたい。
- ・授業内のグループディスカッションやペアを組んでの話し合いが効果的であったことが報告されている。グループディスカッションやペアを組んでの話し合いが簡単にできる教室整備—可動式の椅子、机の設置など—をしてほしい。

5. 授業評価に関する感想、要望

特になし

2025 年度 学科・専攻コースの授業報告

学科・専攻コース名 国際交流学科

1. 授業の目標達成度や学生の取り組みに関する学科・専攻としての所見

総合的に授業の目標達成度は高く、学生たちが目標を「達成できた」「ある程度達成できた」とする意見が5割ずつでした。

2. 目的達成や学生の積極性向上に資する具体的な授業の実践例など

(主体的学習態度を養う取り組み、授業外の学習時間を伸ばす取り組み、ICT 利活用の取り組みなどについて、他の教員にもヒントになるような工夫や方法がありましたらお書きください)

プレゼンテーションやグループディスカッションを課した授業で、学生の積極性が向上している傾向があります。それは、必然的に授業外での準備、主体的学習へと仕向けることになるからです。

学生が、自身の関心に基づいて自分で調べ、自分で考える活動をさせることが効果的と思われます。そして、それに対して教員が「対面で」コメントやフィードバックを、その場のコミュニケーション行為として行うことが、学生の意欲を高めるとも思われます。実に、学生とインターアクティブな内容にすることで、学びが定着し深まるとの意見がありました。

また、予復習の課題が効果的だったという意見も多く、課題が授業外の学習時間を伸ばして知識やスキル（語学等）の定着を促進していることがうかがえます。

さらには、テキスト・文献に加え、講義のレジメやパワーポイントなどの資料配布が効果的であったと全教員が述べています。特に、事前の資料配布をしておくことが、予想以上に効果的であったという意見もありました。

リアクションペーパーに書かれたコメントのいくつかを翌週の授業時に紹介することで、学生がフィードバックを受けていることを自覚し、授業の捉え方をクラスメートから学び、自身も選ばれるようにとのモチベーション向上にもつながるようでした。

3. 今後、学科・専攻コースとして取り組むべき課題

学内システムや ICT 活用については、Google Classroom が定着して数年経ったところで、慎重な意見も複数出ています。人数の多い講義資料では、Google Classroom で資料をデータ配布すると、学生たちが授業中にメモを取らない、欠席で講義を聴かなくても資料を見てリアクションペーパーを書いて提出してしまう、といったケースも増えています。学生からの提出物も、Google Classroom や forms ばかりでは Chat GPT に依存して書かれたものが増えています。紙面での資料配布を検討する、資料を見ながら学生が紙面やワードにメモできるように工夫する、リアクションペーパーは授業内に振り返りを兼ねて紙面に書かせる、といった旧来の方針が学生の傾聴力や思考力を取り戻させることに寄与するともいえます。ICT 活用は、授業管理の効率性が高まる

反面、教育効果の上では依存しすぎないことが重要ではないでしょうか。対面での学生とのコミュニケーションが大切であることにも、継続的に留意する必要があります。

学科の専門科目では従来あまり見られなかった傾向、すなわち真面目で意欲的な学生とそうではない学生が同じ教室に混在し指導が困難になってきた、との意見が教員の中から出ていました。学生による授業評価の中にも、授業中に周りでうるさくて不真面目な学生が多かった、出席していないのに課題だけ出して試験を受けているクラスメートがいる、といった回答を寄せている学生もいました。意欲的な学生を大切に、学習意欲を削がないための工夫を考えなければなりません。

4. 学科・専攻コースの立場として大学に望むこと（意見、提言など）

まずは、設備・環境について。4号館の4-2教室は、廊下側に柱があるという構造上の問題も影響してか、小さなディスプレイがあるのみでパワーポイントを映すスクリーンもなく、学生は座席によってはホワイトボードもディスプレイも何も見えません。講義形式の授業には全く適さない教室なので、教室配分の際には十分留意お願いいたします。1号館では、402教室が設備不足で授業がしづらい、他にも4階には細長い教室で学生との距離が遠く、黒板が小さく板書がしづらい、プロジェクターが使えず学生への掲示が困難だった、といった意見も出ています。指摘のあった教室を点検して設備改善を検討していただけるとありがたいです。

次に、入学時や年度始めの学生への周知に関して。資料配布や連絡の方法が授業担当者によって異なるため、すべての授業で同じ方法であると認識されないよう、「授業ごとに一定の違いがあるので、各担当者からの指示を注意深く確認する必要があります」ことを、一斉に伝えていただけないでしょうか。

さらには、学生にも保証人にも認識してほしい事項の周知に関して。少なくない学生が、何回までであれば授業を休んでも大丈夫といった誤解をしています。入学の時点で、学生と保証人には単位取得に必要な学修について、それが満たされなければ単位取得できないことを、規定や履修要覧等に即して説明できると良いと思います。

5. 授業評価に関する感想、要望

授業評価の回答率が低いので、これを高めるため、授業担当者から個別に連絡するだけでなく、全学的に学生に回答を呼びかけていただくことも必要だと思われます。また、授業内での回答をさせることで回答率が高まるため、それを認める方針も検討いただけるでしょうか。

授業評価は、期末試験を行う授業では、試験後に回答させるとそれ以前に回答をさせる場合に比べていわば苦情が増える傾向があります。試験が難しすぎた、試験対策のための資料の工夫がなかった、など。このように、回答させるタイミングによって異なる反応が見られることには、留意すべきだと思われます。

また、無記名回答をさせている以上、昨今SNS等での匿名非情なコメント投稿を見慣れている学生たちの中には、建設的な内容ではなく、無責任な回答が増えているように感じます。できれば、授業評価を現在のようなかたちでさせるのではなく、最終回授業の振り返りの一部に取り入

れ、顔の見えるかたちでの学生同士のディスカッションをさせ、報告させる、教員はそれを受け入れてフィードバックする、といった工夫があれば、参加率も高まり、授業の満足度や意味づけが深まるのではないのでしょうか。

2025 年度 学科・専攻コースの授業報告

学科・専攻コース名 哲学科

1. 授業の目標達成度や学生の取り組みに関する学科・専攻としての所見

全教員がそれぞれの授業について、「達成できた」「ある程度達成できた」と回答している。

学生の取り組みに関する評価については、昨年度から、哲学科 2 年次必修科目の「哲学基礎演習」の最後の授業で行った自己評価に基づいて回答したい。「哲学基礎演習」の到達目標を掲示し、それらについて受講生がリアクションペーパーとして回答する形である。

【到達目標】

- ①哲学科での学びの方法の基礎を知り、自分の研究テーマを見つける手がかりを得る。
- ②哲学的な思考法、探究法、表現法の基礎を学び、実践する。
- ③自分の研究成果を発表する／他の学生の研究発表を聞く経験をする。
- ④学生同士および教員との交流を深め、自由な哲学的コミュニティを形成する。

上記の自己評価からも、実際の授業の様子からも、各受講生が真面目に取り組んでいる様子がうかがえた。なかでも、自己評価においては、受講する前と後とで、自らの課題を明確にすることができるようになってきていることがみてとれた。上記到達目標①と②については自分の弱点や課題を、③と④についてはその意義を各受講生が自覚し、回答する傾向にあった。しかしながら、自己評価と実際の評価との関連や分析については行っていないため、今後の課題としたい。

2. 目的達成や学生の積極性向上に資する具体的な授業の実践例など

（主体的学習態度を養う取り組み、授業外の学習時間を伸ばす取り組み、ICT 利活用の取り組みなどについて、他の教員にもヒントになるような工夫や方法がありましたらお書きください）

各教員の回答全体をみると、レジュメなどの配布資料の活用がもっとも多く、つづいてパワーポイントや文献などの資料の活用を挙げた教員が多かった。

400 番教室のような大人数のクラスにおいては、Google Classroom で授業資料を配布することで、後方の座席に着席する受講生たちにとっては視認性が上がり、好評であった。

個別の回答としては、以下のようなものがあった。

- ・適切な講読用教材の作成。
- ・学生の興味関心を惹起し、今後の学生生活に必要な、基本的な学術的スキルを身につけることができるよう、教材を工夫する。レポートの書き方や改善の仕方については、明確かつ分かり易い伝え方を工夫する。
- ・当日に用いるテキストについて授業前に必ず予習し、また授業内で個人の意見を言うための材料をあらかじめ用意することができるよう、事前にテキストを読んでコメントを GoogleClassroom で Form を使って提出するように求めている。そのコメントは事前に教員が目を通し、重要と思われる指摘について下線を引くなどして Classroom に授業前にアップし、全員

が全員のコメントを確認でき、また授業内での発言の際のポイントを示すようにしている。

- ・学生同士が対話をする機会を設けることは、短時間であっても、授業への積極的な参加を促し、それぞれの理解を深める上で有効である。
- ・詳細だが飽きさせない文法解説。
- ・資料の一覧性の向上。学生が質問しやすい環境づくり。リアクションペーパーの工夫。
- ・視聴覚教材の工夫。質問しやすい環境づくり。リアクションペーパーを手書きで記入する時間の確保。
- ・哲学科の演習は2～4年生、場合によっては大学院生も参加している。先輩の取り組み方を学ぶことにより、下級生が演習への参加の仕方を心得ていくことができるようになっていると考えている。

3. 今後、学科・専攻コースとして取り組むべき課題

報告書の回答には、以下のような意見が寄せられた。

- ・多様なレベルや関心を持った学生が多数参加する授業は、講義をする側にとっても焦点を合わせづらいところがある。常に学生の反応を掴むよう心がけ、必要があれば授業内容を適宜調整したり、理解を促進するための補足資料や課題を提供していくことが求められる。
- ・授業の満足度は「よくあてはまる」が70%であったが、一方で、予習・復習に割いた時間については週30分以下が52%、週0分が19%にのぼった。教科書や資料を読んだり、課題にとりくむことだけでなく、日々の生活の中で学習したことと結び付けて物を考えることもまた、学習内容を自らのものとして、学術的観点から社会問題を捉え直す営みであり、授業時間外の学修であることを自覚してもらうよう、学術的知見を生活の中で活かすこととはどのようなことかについて、学生に伝わるような工夫をしたい。
- ・アンケート結果は概ね肯定的であったが、予習・復習時間が週30分以下が40%、週0分が15%にのぼった。一方で、(アンケートの自由記述には記載がないが)参考文献として挙げた文献を自ら手に取ったとの報告も見られ、《授業を基に考察を深めること》と《予習・復習》という語の間にズレが生じているように思われる。この点を改善するため、自ら主体的に学ぶとはいかなることかを積極的に伝えるよう工夫したい。

4. 学科・専攻コースの立場として大学に望むこと（意見、提言など）

報告書には、以下のような回答が寄せられた。

教室について

アンケートの自由記述に、履修者数が多く教室の座席数に見合っていないとの指摘があったが、教室定員内の受講者数であった。一方で、教室の試験定員に対しては履修者数が超過している状況であり、教室定員と、学生が感じる適正な受講者数との間にズレが生じているように思われる。PCの持ち込み等、学習環境の変化に合わせた、教室定員の見直しが将来的には必要かもしれない。

1 年次生の科目について

「哲学入門」は履修者数が過多の状況であった。1 年次生の履修可能な科目が偏らないよう、時間割編成を全体として見直すことが望まれる。

5. 授業評価に関する感想、要望

報告書には、以下のような回答が寄せられた。

・今回、授業評価アンケートの提出者が受講者数を超えていた。同じ受講者が生年月日などを変えて、敢えて複数提出したということであろう。そのなかに授業に対するネガティブな意見（類似した内容）を述べた自由記述が4件あった。このようなことはこれまでなかったことなので大変驚いた。意見自体に対しては、誤解だと抗弁したい気持ちや、できれば口頭で言ってほしかったという思いがある一方で、それを言えないような雰囲気をつくっていたのだとすればそれは改めたいと考えている。成績評価については、当初シラバスに記した割合で評価しており、F判定であった学生はいずれも事前コメントをほぼ提出していないためにその評価となったものである。

2025 年度 学科・専攻コースの授業報告

学科・専攻コース名 教育学科

1. 授業の目標達成度や学生の取り組みに関する学科・専攻としての所見

「ある程度達成できた」が 62.5%、「達成できた」が 37.5%となり、目標達成度は高く、学生の取り組みが良い様子が見えた。

2. 目的達成や学生の積極性向上に資する具体的な授業の実践例など

(他の教員にもヒントになるような工夫や方法がありましたらお書きください)

多くの教員が採用している実践の工夫は次の通りである。

- ・授業内での課題 (87.5%)
- ・パワーポイント (75%)
- ・レジュメなどの配付資料 (75%)
- ・グループディスカッション (62.5%)
- ・グループワーク (62.5%)
- ・Sophie や Google ドライブ等の学内システム (62.5%)

具体的なコメントには次のようなものがあった。

- ・教科の特性もあるが、文字を書く活動はすべて手書きで行った。
- ・一方通行の講義形式ではなく、グループワークや具体的な活動などを取り入れることで自らの体験、経験値を想起したり、新たな発見をし、その中思考力を伸ばす。
- ・ディスカッションベースの授業は、学生の「積極的な参加」が保障され、功を奏していると考えられる。
- ・課題やグループワークなど何をしていても、教員からのフィードバックを必ず返すこと。提出されたレポートや、報告については必ずコメントをつけて返却してきた。そうすることで、学生も、教員が丁寧にみて返答をしてくれることを期待して、まじめに課題に取り組むようになっていくと思う。
- ・知識構成型ジグソー法によるグループワーク、講義、グループ単位での調査活動、ウォームアップ&振り返りの個人課題などの組み合わせで、14 回の学習の流れを切らないようにすること。加えて、今年度は編入生を含むメンバーの多様性の幅が大きかったため、多様性を理解深化に生かせるよう、グループの編成や、全体交流時のフィードバック等を工夫した。
- ・実習で経験した内容を学生にそれぞれまとめてもらい、プレゼンテーションを行うことで、事例における共通点や違いを学生がそれぞれ確認し、学びを深める形式を採用した結果、自分が実習を行った種別の施設とは違う施設の子どもの対応に関しても、深く考える取り組みができた。また同じ種別の施設においても、施設の理念の違いや実習で出会う子どもの年齢や入所背景の違いによっても対応する内容が違うことに気づき、さらに知りたいと積極的に学ぶ学生の姿がみられた。

- ・演習授業であったので、できるだけ事例を用いて、グループディスカッションを行った。

3. 今後、学科・専攻コースとして取り組むべき課題

- ・学生の興味や関心の度合いを把握すること。良い意味での親密さ。
- ・授業の性質上、教材研究は必須。学生の興味関心を事前に把握することも授業運営には重要。
- ・動画は使用しないが、資料を予習として読んできて、授業時間内には予習をもとにしたディスカッションを行う反転授業を行った。本科目におけるディスカッションベースの授業の課題を丁寧にとらえ、次年度の授業に活かしたい。
- ・専門知識の中に時事的な問題なども取り入れて、学生が生きる時代にあうテーマを常に取り入れていくこと
- ・学生自身が授業内容を自分の言葉で咀嚼するために、理解深化のための思考・対話に従事しやすい流れで各回授業を組み立てる。2 年後期ゼミの特性として、学習科学というディシプリンの特徴が体験的に学べるように 14 回の流れを構築する。
- ・資質・能力のうちの「知識・技能」の体系化だけでなく、「思考・判断・表現」「学びに向かう力」の体系化も進めていけるとよいと思われる。
- ・各学年の到達目標の「具体像」の明確化と共有。前職では教員による授業相互参観を FD として実施しており、到達目標の具体化や、目標達成のための学生の育ちの過程について、多様な可能性をイメージすることに資していたような気もしている。

4. 学科・専攻コースの立場として大学に望むこと（意見、提言など）

- ・椅子や机も含めた教室内設備（環境）の更新。
- ・教室環境を万全にする。本授業では 41 番教室を主に使用していたので Q3 には「問題がない」にチェックをしたが、年間授業を行うにあたっての意見。
- ・学生のよりよい学びにおいて学習環境は最重要点であるが、2 号館の 4 階、特に 42, 43 番教室においてはプロジェクターなどは他教室のように大学側からのセッティングではないうえに、窓側（南側）が明るすぎて画像が見づらいので、ブラインドのみならず暗幕のようなものもしっかりと設置してほしい。あらゆる学生が使用する教室ではないので後手にされているのかもしれないが、学びの質は均等にしてもらいたいというのが本音"
- ・3 号館 333 教室だったので、特に大きな問題はなかったが、Wi-Fi の環境が悪い時があるので、その点においては強化してほしいと思うことがあった。映像の画像を写したくても、古い機器なので上手く映らない時があり、設備を新しいものに変更してほしいと思う。

5. 授業評価に関する感想、要望

- ・授業評価については、教員の今後の指針になるので有益かと思われる。
- ・授業評価を「計画」「実践」をふまえたものとして実施するようなしかけがあるとさらに良いかなと思われる。
- ・紙媒体ではなく、データで結果を共有いただけると活用しやすいように思う。

- ・授業アンケート結果は、オンラインで確認できるようになっていると、各年度の比較等もできてありがたい。

2025 年度 学科・専攻コースの授業報告

学科・専攻コース名 心理学科

1. 授業の目標達成度や学生の取り組みに関する学科・専攻としての所見

報告書が提出された全ての科目において、目標達成度は「達成できた」「ある程度達成できた」であった。

2. 目的達成や学生の積極性向上に資する具体的な授業の実践例など

(主体的学習態度を養う取り組み,授業外の学習時間を伸ばす取り組み,ICT 利活用の取り組みなどについて,他の教員にもヒントになるような工夫や方法がありましたらお書きください)

学科の専任教員より以下のような事例や提案が寄せられた。

- ・最初にクイズ形式で授業テーマに関する問いに回答してもらい、最後に再度アンケートを行う形にした。興味を引き付けてから、講義をしたので、みな熱心に聞いてくれたように思う。
- ・話をする形の講義だけではなく、グループワークや課題を途中で挟む、学生さんに話をしてもらうなどが効果的だったと思った。
- ・授業内での簡単な実験,ビデオ視聴,毎回のリアクション課題とそれに対するフィードバックなどが効果的と思われる。
- ・双方向的な授業をなるべく心がけることが重要と思われる。Slido (<https://www.slido.com/>) は匿名の形でリアルタイムに受講生の意見やコメントを受け付けられるので、双方向的な授業を簡便に行うことができよいと思う。
- ・1回の授業(演習で3人が文献紹介)時に,全員がコメントをするよう促し,発表者にフィードバックすることで,卒論への取り組みの動機づけを行う。
- ・学生が発表する文献の事前確認,学生の関心に応じた文献の紹介等。

3. 今後,学科・専攻コースとして取り組むべき課題

学科の専任教員より以下のような意見が寄せられた。

- ・一方的に話すだけの講義では退屈を感じる学生も多いので,学生の積極的な参加を促す必要がある。
- ・学生の人数が多いと,学生自身に考えさせたり,ディスカッションをさせる機会を持つことが難しくなるため,より工夫する必要があると考えている。
- ・今回、学生からの授業評価で「私語をしっかりと注意してくれたことがありがたかった」というコメントをいただいた。私語を気にする学生がいること、そして、そういった学生のためにも、目立った私語を注意することが重要であるということを認識した。次年度以降も、配慮の必要な受講生が現れることと思うが、修学支援パスポートの有無に関係なく、配慮の必要な学生の声を丁寧に聴き取り、可能な範囲で授業内容や方法を調整するべきと感じている。

4. 学科・専攻コースの立場として大学に望むこと（意見,提言など）

学科の専任教員より以下のような要望が寄せられた。

- ・大きな教室の増設を希望する。授業内でテストを実施する場合、不正行為防止のために隣の席と十分にスペースをあける必要がある。受講生の多い授業（150 名前後）で、スペースを確保し試験できる教室が、現状、400 番教室くらいしかない。そのため、今年度は試験の際に教室を 2 つに分けざるを得ず、別の教員に試験監督を手伝ってもらわねばならなくなった。150 名規模の受講生が難なく試験を受けられるような大教室の増設に取り組んでいただきたい。
- ・プロジェクターが暗くパワーポイントや映像教材が見えにくい教室があるため、整備をお願いしたい。

5. 授業評価に関する感想,要望

学科の専任教員より以下のような感想や要望が寄せられた。

- ・授業評価アンケートの回答率が低かったため,次年度以降工夫をしていく必要を感じた。

第4章 グッドティーチャー賞の推薦

本年度は顕著に評価が高かった教員が特定されず、グッドティーチャー賞は該当者なしとした。

2025 年度 ○期「授業に関する調査」(選択方式)

授業内容・方法、教室・設備等について、授業を履修した皆さんの意見を広くお聞きし、その結果を授業改善に生かすことを目的に、「授業に関する調査」を全学的に実施いたします。この調査結果は、「授業報告書」という形式にまとめられ、学生の皆さんにも公開されます。また、大学全体の授業や設備改善のための資料としても活用されます。書いた内容によって皆さんの成績評価が影響を受けることは一切ありませんので、率直な意見、提言をお寄せください。前期の調査は、下記の要領で実施されます。ご協力をお願いいたします。

対象科目：○期開講科目 ※授業担当者が1科目を選定

実施時期：○月○日(○)～○月○日(○) ○期授業終了日まで

実施方法：Sophie 全学掲示に実施について掲載していますが、実際の実施については

授業担当者から授業時間内もしくは Sophie「担当者からのお知らせ」などで指示があります。その指示に従い、回答してください。

回答は無記名で、時間は10分～15分程度です。

※授業名・授業担当者をシラバスの通り正確に記載してください。

聖心女子大学 副学長(評価・研究担当) 菅原 健介
教務課

※以下、アカウントが表示されていますが、回答については個人が特定されることは一切ありません。回答にご協力をお願いいたします。

二重回答した際のチェックのため、次の質問にお答えください。この回答は集計には用いず、授業評価の終了期間後、すぐに削除します。

・あなたの誕生日を入力してください。例：4月○日 ⇒4 10月○日 10

・あなたの携帯番号の下一桁を入力してください。 例：090-○○○○-○○○1 ⇒1

⇒4月の誕生日の方は41、10月の誕生日の方は101と入力してください。

数字を入力してください。

授業科目の入力について

授業科目名は必ず入力してください。その際、シラバス記載の授業科目名をクラス(数字もしくはアルファベット)まで必ず入れてください。

例) キリスト教学Ⅰ-1(1)、1年中国語文法(1)A or (2)A、2年英語 Reading1B、日本文化研究1など

授業名を入力してください。*

授業担当者の入力について

授業科目名でデータの仕分けができない場合、授業担当者で仕分けをすることになりますので、こちらにも必ず入力してください。

授業担当者を入力してください。*

授業の開講日と時限について

語学など複数曜日、時限開講の場合は週の早い曜日と時限を選択してください。

例：火曜日 1 時限と木曜日 2 時限の授業の場合・・・火曜日と 1 時限を選択してください。

集中講義などの場合は、授業の開講日はその他を選択、時限はその他を選択し集中と入力してください。

授業の開講日を選択してください。（ラジオボタンで選択）

時限を選択してください。

1 時限

2 時限

3 時限

4 時限

5 時限

その他:

あなたの所属学科・専攻をお知らせください。

※1 年次生は基礎課程を選択してください。（ラジオボタンで選択）

基礎課程

英語文化コミュニケーション

日本語日本文学

史学

人間関係

国際交流

哲学

教育学

初等教育学

心理学

その他:

学年を選択してください。（ラジオボタンで選択）

- 1 年次生
- 2 年次生
- 3 年次生
- 4 年次生
- 大学院生
- その他:

Q1. この授業への出席率はどのくらいでしたか。

- すべて出席した
- 1 度か 2 度欠席したがほとんど出席した
- 3 分の 2 程度出席した
- 3 分の 1 程度出席した
- ほとんど出席しなかった

Q2. この授業のために平均何時間程度予習・復習しましたか。

- 週 2 時間以上
- 週 1 時間～2 時間
- 週 30 分～1 時間
- 週 30 分以下
- 週 0 分

Q3. 受講前からこの授業の内容に興味・関心があった。

- よくあてはまる
- ある程度あてはまる
- どちらともいえない
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

Q4. シラバスの記載内容は、この授業を受講する上で役立った。

- よくあてはまる
- ある程度あてはまる
- どちらともいえない
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

Q5. 教員の説明の仕方、話し方はわかりやすかった。

よくあてはまる

ある程度あてはまる

どちらともいえない

あまりあてはまらない

まったくあてはまらない

Q6. 授業中に使う教材（テキスト・配付資料・映像）などは学習の役に立った。

よくあてはまる

ある程度あてはまる

どちらともいえない

あまりあてはまらない

まったくあてはまらない

Q7. 毎回の授業内容の分量や速度は適切だった。

よくあてはまる

ある程度あてはまる

どちらともいえない

あまりあてはまらない

まったくあてはまらない

Q8. 授業に集中できる環境や質問、相談がしやすい雰囲気があるなど、安心して学習に取り組むことができる状況がつけられていた。

よくあてはまる

ある程度あてはまる

どちらともいえない

あまりあてはまらない

まったくあてはまらない

Q9. この授業を受講して、自らの知識や能力が向上したと感じる。

よくあてはまる

ある程度あてはまる

どちらともいえない

あまりあてはまらない

まったくあてはまらない

Q10. 総合的にみて、この授業に満足した。

よくあてはまる

ある程度あてはまる

どちらともいえない

あまりあてはまらない

まったくあてはまらない

Q11. この授業の良かった点、あるいは改善すべき点は何ですか。また、設備や教室、通信環境などに関して何か意見や感想がありますか。この授業の改善につながるような建設的な意見を書いてください。

ご協力ありがとうございました。

2025 年度 専任教員授業報告書（〇〇学科）

本報告は本年度のご自身の授業を振り返っていただくと同時に、個々の先生方のご経験やご意見を全学的に役立たせるための資料として使わせていただきたいと思います。学生の授業評価の集計結果とともに整理して掲載させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

所属学科を選択してください。（プルダウンで選択）

氏名（役職）

授業科目名

授業形式 （ラジオボタンで選択）

1. ゼミ・演習

2. 講義

その他:

Q1. 本授業では目標をどの程度達成できたと思いますか。 （ラジオボタンで選択）

1. 達成できた

2. ある程度達成できた

3. あまり達成できなかった

4. 達成できなかった

Q2. 目標を達成する上で効果的だった方法や工夫はどのようなものですか。 （複数回答可）

1. パワーポイント

2. レジюмеなどの配付資料

3. 文献などの資料・史料

4. 教科書・問題集などの教材
5. 視聴覚教材
6. プレゼンテーション
7. ロールプレイング
8. グループディスカッション
9. ディベート
10. グループワーク
11. ゲストスピーカーの招聘
12. ICT ツールの活用
13. 学内システム (Sophie、Google ドライブ等)
14. 教室 (座席変更のできる教室・演習室等)
15. 予復習の課題
16. 授業内での課題
17. 私語への注意、対応
18. 小テスト
19. 厳格な出欠席
20. 授業の時間帯
21. シラバスの工夫

その他:

Q3. 教室設備 (空調・ICT 機器・マイク等) や通信環境に問題がありましたか。

1. 特に問題はなかった⇒Q4 へ
2. 問題があった⇒問題があった教室もしくはオンライン環境についてお聞かせくださいへ

例) 205 番教室 プロジェクタの色や鮮明度に問題があった。

オンライン Wi-Fi がつながらない。つながりにくい。 など

- ① 教員個人が取り組むべきこと、効果的な授業方法、運営の仕方について（ご自身のことでなくても結構です）
- ② 学生の積極的な取り組みを促すために効果的と思われる授業方法や工夫について
- ③ 学科や大学全体として取り組むべきことについて
- ④ その他、アンケート結果（結果について・学生のコメントなど）や授業評価全体についての意見・提言など

ありがとうございました。

